

救急法及衛生法大意

253

860

特65  
270

陸普第四〇三五號

軍隊教育順次敕令ニ依リ教育スヘキ救急法及衛生法

大意別冊ノ通定ム

明治四十二年八月二十九日 陸軍大臣 子爵 寺内正毅

救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意

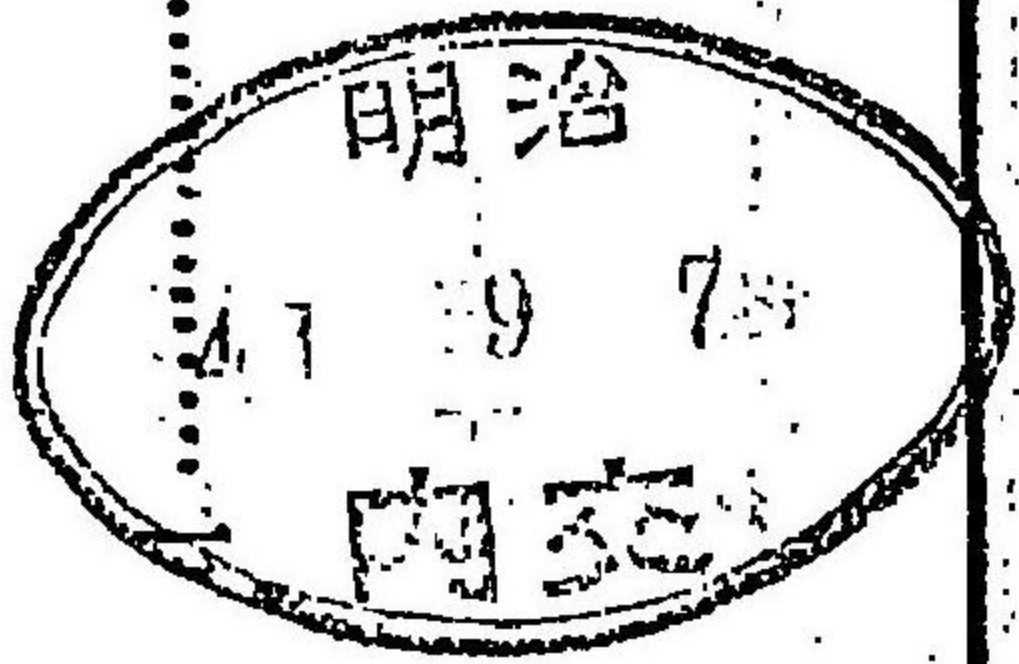
第一章 創傷

其一 創傷ノ處置、繃帶包

其二 止血

第二章 三角巾

第三章 急病



一

十二

二十

二十九

其二 卒倒 ..... 二十九

其一 火傷、電氣傷 ..... 三十一

其三 喝病 ..... 三十三

其四 凍傷 ..... 三十六

其五 凍死 ..... 三十七

其六 溺水 ..... 三十九

其七 窒息 ..... 四十

其八 埋歿假死 ..... 四十二

其九 咬傷、螫傷 ..... 四十三

其十 中毒 ..... 四十四

第四章 人工呼吸法 ..... 四十五

第二編 衛生法大意 ..... 四十六

第一章 傳染病ノ豫防 ..... 五十六

第二章 傳染病ノ種類 ..... 五十五

其一 虎列刺 ..... 五十五

其二 赤痢 ..... 五十八

其三 腸室扶私 ..... 六十

其四 「ペスト」 ..... 六十一

其五 麻刺里亞 ..... 六十四

其六 結核 ..... 六十五

其七 花柳病 ..... 六十七

其八 「トラホーム」 ..... 六十九

第三章 雜件 ..... 七十一

救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意

第二章 創傷

其一 創傷ノ處置、繃帶包

第一 創傷ノ癒ニルコトヲ妨クルハ病原菌ノ創ヨリ入ル

ニ因ル病原菌ハ空氣中ニ雜レル塵ニ附キ居ルカ故ニ

創ヲ開キ置ケハ塵ト共ニ降りテ之ニ附ク手ノ指モ消

毒ヲ經ルニアラテハ病原菌ノ附キ居ルコトヲ免レヌ  
 故ニ創ニ指ノ觸ルルハ害アリ  
 紙、手巾其他ノ布片モ亦病原菌附キ居ルコトアルヲ  
 以テ創ニ觸レシムヘカラス  
 創ヲ拭ヒ淨メ又洗ヒ淨メント欲スルトキハ却テ之カ  
 爲ニ病原菌ヲ創ニ入ラシムル虞アリ故ニ拭ヒ洗フコ  
 トヲ禁ス

彈丸、衣片ノ如キ異物創口ニ見ハルトモ拔キ除カン  
 ト欲スルコト勿レ創ニ血ノ凝リ着キタルトキハ之ヲ  
 剝キ取ルコト勿レ

第二 繃帶ハ衛生部員ノ施スヘキモノトス衛生部員在  
 ラサルトキハ擔架卒若ハ補助擔架卒之ヲ施ス以上ノ  
 モノ附近ニアラサルトキハ下士卒創ヲ露シ繃帶包モ  
 テ繃帶ヲ施スコトヲ得

第三 創ヲ露スニハ創部ノ温存ヲ要ス温存トハイタハ  
ルナリ

衣ヲ脱クニハ健側ヨリシ再ヒ著ルニハ創側ヨリシ以  
テ創ヲ温存スヘシ

襦袢ハ翻轉スヘシ

袴、袴下ハ左右同時ニ徐ニ引キテ脱カシムヘシ  
靴ヲ脱カシムルトキハ一手ヲ靴ノ踵ニ掛クヘシ

袖、袴、襦袢、袴下、靴ハ要スルトキハ截リ開キ又  
ハ縫目ニ沿ヒテ解クコトヲ得  
血ニ塗レ若ハ汚レタル被服ノ一部ハ創ノ周圍ヨリ除  
キ去ルコトヲ得

第四 繃帶包ハ三角巾一枚、昇黍「ガーゼ」四枚、「ガ  
ーゼ」包紙二枚及被包布一枚ヨリ成ル  
繃帶包ハ疊ミタル「ガーゼ」二枚宛ヲ包紙ニテ包ミ



其ノ二包ヲ疊ミタル三角巾ニ挿ミ此ノ三角巾ヲ被包  
布ニテ包ミ縫ヒ封緘紙ヲ貼リテアリ

繃帶包ハ衣ノ左裾裏ニ納レアリ

第五 繃帶包ヲ用井ルニハ被包布ヲ解キ包紙ヲ破リ

「ガーゼ」ヲ兩指ニテ撮ミ物ニ觸レサルヤウ「ガーゼ」  
ヲ開キ指ノ觸レサル處ヲ創ニ當テ殘レル「ガーゼ」ヲ  
其ノ上ニ疊ネ下ニ示ス如ク三角巾ニテ卷クヘシ

一度開キタル繃帶包ノ中ノ「ガーゼ」ハ一時ニ使ヒ盡  
スヲ要ス被包布及包紙ハ創ニ用井サルモノトス

創口ニ箇所アラハ「ガーゼ」一包宛ニ箇所以上アラハ

一枚宛用井殘レル「ガーゼ」ハ重キ創口ニ當ツヘシ

上肢ニ繃帶ヲ施シタルトキハ衣ノ鈕ヲ外シ手ヲ懷ニ  
入レ又ハ下ニ示ス如ク前膊ヲ胸ノ前ニ吊リテ支フヘシ

第六 上肢又ハ下肢ノ骨折レタル徵ハ手足ノ位置常態

ニ變<sup>カハ</sup>リ形<sup>カタチ</sup>ヲ變<sup>ヘン</sup>シ短<sup>ミヅカ</sup>クナリ曲<sup>マゴ</sup>リテ角<sup>カク</sup>ヲ爲<sup>ナ</sup>シ痛<sup>イタミ</sup>甚<sup>シ</sup>クシ  
テ腫<sup>ハ</sup>レ居<sup>ル</sup>ニテ知<sup>ル</sup>ヘシ又患者<sup>クワンシヤ</sup>ノ自<sup>ミヅカ</sup>ラ手足<sup>テ</sup>ヲ動<sup>ス</sup>スユ  
ト能<sup>ハ</sup>ス之<sup>ヲ</sup>動<sup>サ</sup>ントスルトキハ劇<sup>ハゲ</sup>シキ痛<sup>ヲ</sup>覺<sup>オボ</sup>ユル  
ニテ知<sup>ル</sup>ヘシ

骨<sup>ノ</sup>折<sup>レ</sup>タル處<sup>ノ</sup>皮<sup>ニ</sup>創<sup>キズ</sup>アラハ其<sup>ノ</sup>創<sup>ニ</sup>觸<sup>ル</sup>ヘカラ  
サルハ勿<sup>モチ</sup>論<sup>ロン</sup>折<sup>レ</sup>タルヤ否<sup>イナ</sup>ヤヲ知<sup>ラ</sup>ント欲<sup>シ</sup>テ傷<sup>キズ</sup>キタ  
ル手足<sup>ヲ</sup>動<sup>カ</sup>シ折<sup>レ</sup>タル骨<sup>端</sup>ニ軋<sup>コウタン</sup>音<sup>ヲ</sup>生<sup>セ</sup>シメ又ハ

曲<sup>リ</sup>タルヲ直<sup>ナホ</sup>サント欲<sup>ホツ</sup>スルコトハ之<sup>ヲ</sup>嚴<sup>ゲン</sup>禁<sup>キン</sup>ス

第七 上肢又ハ下肢ノ骨ノ折レタルニ補助擔架卒等在

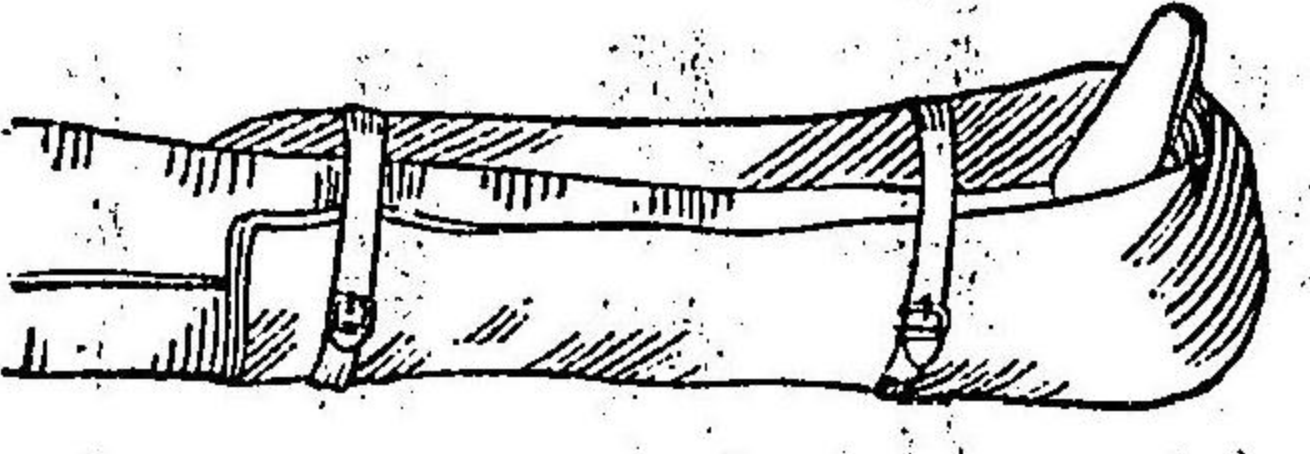
ヲサルトキハ四人ニテ繃帶ヲ施スコトヲ得

甲<sup>カウ</sup>ハ創<sup>ヨリ</sup>上<sup>ウヘ</sup>ヲ持<sup>テ</sup>乙<sup>オウ</sup>ハ創<sup>ヨリ</sup>下<sup>シタ</sup>ヲ持<sup>テ</sup>丙<sup>ヘイ</sup>ヲシテ支<sup>ササ</sup>  
ヘシメ徐<sup>シツカ</sup>ニ引<sup>キ</sup>ツツ擡<sup>モタ</sup>ケ舉<sup>ア</sup>クヘシ

第二ニ依<sup>リ</sup>繃帶ヲ要<sup>ス</sup>ルトキハ創ヲ露<sup>ス</sup>ヘキナレト  
モ之<sup>ヲ</sup>要<sup>セ</sup>サルトキハ繃帶ニテ支<sup>シ</sup>持<sup>チ</sup>ス此<sup>ノ</sup>繃帶ハ甲

乙ノ引キツツ擡ケ居ル間ニ丙丁之ヲ施ス  
 肘ヨリ上又ハ肘ヨリ下折レタルトキハ簾、新シキ蓆  
 ノ如キモノニテ卷キ又ハ軟ナルモノヲ當テタル上ニ  
 内側ニ短キ棒ノ類、外側ニ長キ棒ノ類ヲ當テテ括リ  
 下ニ示ス如ク胸ニ吊リテ支ヘ又健側ノ手ニテ支ヘ持  
 タシムヘシ  
 膝ノ直上又ハ膝ヨリ下折レタルトキハ單ニ長キ藁束

第一圖



又ハ卷キタル外套ノ一端ヲ大腿ノ中央ノ内側ニ當テ  
 蹠ニテ折り曲ケ他ノ端ヲ大腿ノ中央ノ外側ニ達セシ  
 メ膝ノ上下ニテ括リ附ケ支フルモ可ナリ(第一圖)  
 又先ツ軟キ物ヲ當テタル上ニ下肢ノ内側ニ  
 大腿ノ中央ニ達スル棒ノ類ヲ當テテ外側ニ腰  
 ニ達スル棒ノ類ヲ當テ括リ附クヘシ  
 前項ニ示セルヨリ高キ處ニテ大腿ノ骨折レ

タルトキハ棒ノ類ヲ當ツトモ功ナキカ故ニ前項前段  
ノ處置ニ從ヒ安置スヘシ  
棒ノ類ニハ尙、木ノ皮、高粱稗、狹キ板、ブリキ、銃  
劍、軍刀等アリ

其二 止血

第八 血ハ心ノ臟ヨリ動脈ニ通シ動脈ノ枝ニ入りテ全  
身ニ瀰リ靜脈ニ合シテ心ノ臟ニ歸ル

動脈淺キ處ニアルトキハ指ニテ脈ヲ觸ル

第九 上肢又ハ下肢ノ創ヨリ血出ツルコト少キトキ之  
ヲ擡ケ舉ケ、吊リ又ハ下ヨリ支フルトキハ血止マル

第一〇 上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト稍多キニ衛生  
部員、擔架卒等在ラサルトキハ骨ノ折レ居ラヌ限リ

ハ甲其ノ上肢又ハ下肢ヲ豎テ乙「ガーゼ」ヲ創ニ當テ  
「ガーゼ」ヲ疊ネテ下ニ示ス如ク三角巾ニテ括リ、高

ク支持スヘシ

第一二指、口ノ近傍、<sup>キンバウ</sup>上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト

甚々多キニ衛生部員、擔架卒等在ラサルトキハ創ヨ

リ心ノ臟ニ近キ脈ノアル所ヲ骨ニ向ケ壓シテ血ヲ止

ムヘシ

第一圖



指ヨリ血出ツルトキハ指ノ根<sup>ネ</sup>ノ兩

側<sup>ソウ</sup>ニ拇指<sup>オヤユビ</sup>ト示指<sup>ヒトサシユビ</sup>トヲ當テ強ク撮<sup>ツマ</sup>ム

ヘシ (第二圖ノ一)

手又ハ前膊ヨリ血出ツルトキハ二ノ腕力<sup>ウデチカラコノ</sup>瘤<sup>ウチガハ</sup>ノ内側ヲ

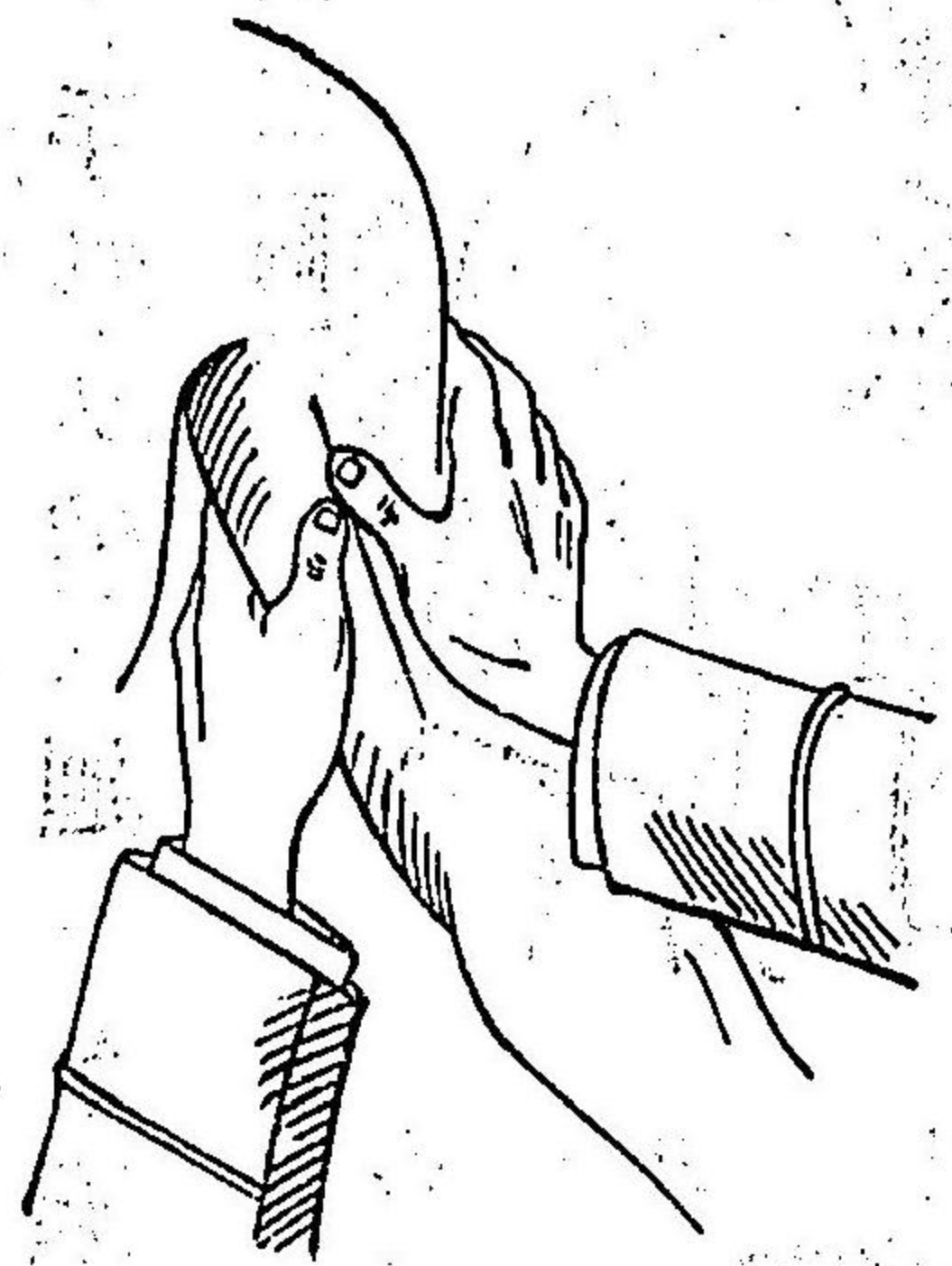
ル淺キ溝<sup>ミヅ</sup>アル所ニ兩

手ノ拇指ヲ當テ他ノ

指<sup>サシユ</sup>ヲ後ニ廻<sup>マシ</sup>シテ握<sup>ニギ</sup>リ

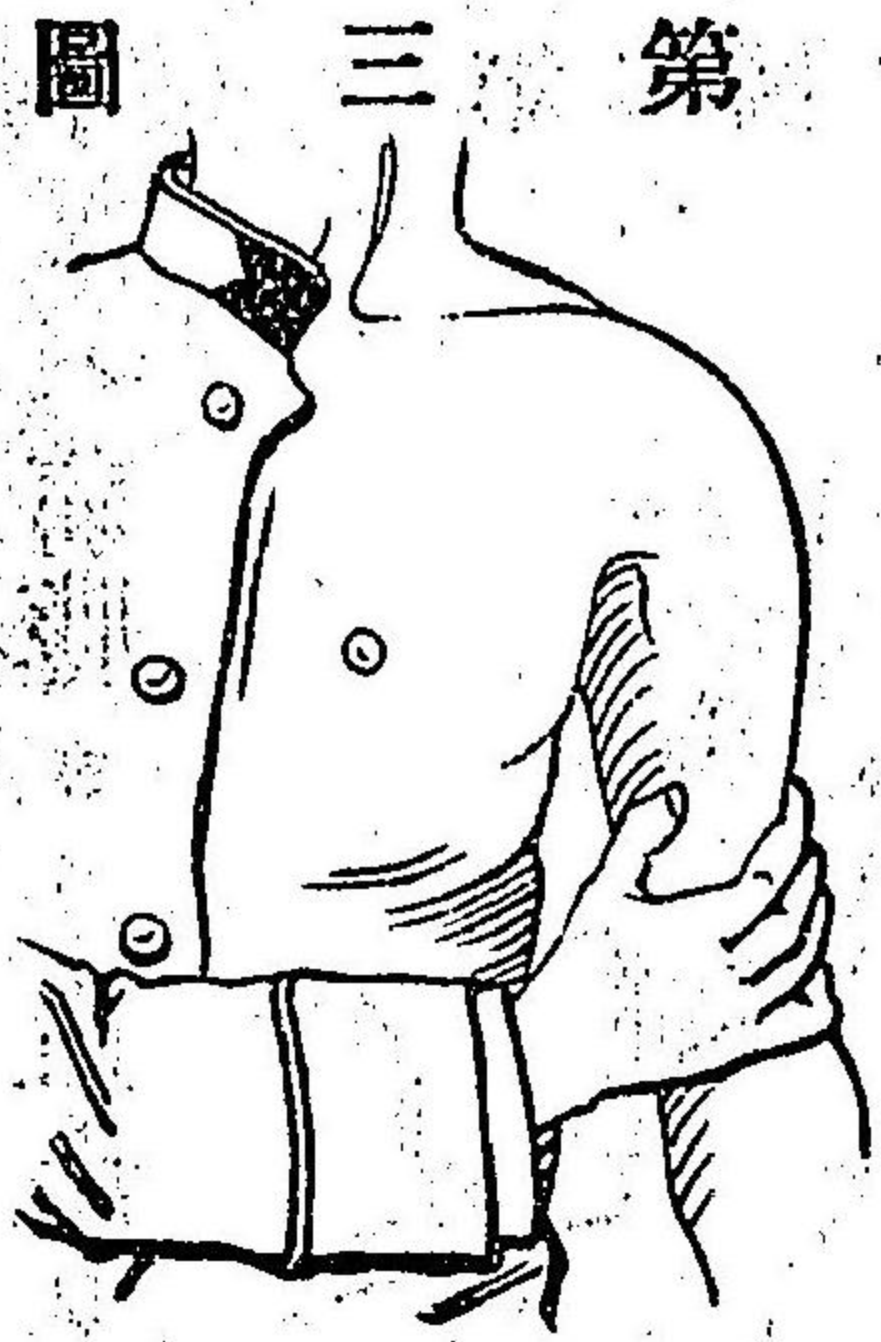
拇指モテ強ク壓スヘ

第二圖ノ二



シ (第二圖ノ二)

又傷者自ラ之ヲ行フニハ拇指ノ尖ヲ上ニ記セル溝ニ  
當テ手掌ヲ前ニ廻シテ握リ拇指ノ尖ニテ壓スヘ  
シ(第三圖)



臂ノ上部或ハ腋ノ下ヨリ血出ツルトキハ頸ノ下、鎖



圖 四 第

骨ノ上ノ窪ニ拇指ノ尖ヲ當テ深ク内下方ニ向ヒ壓ス  
ヘシ(第四圖)

口ノ近傍ヨリ血出ツルトキハ下顎骨ノ角ノ少シ前ヲ

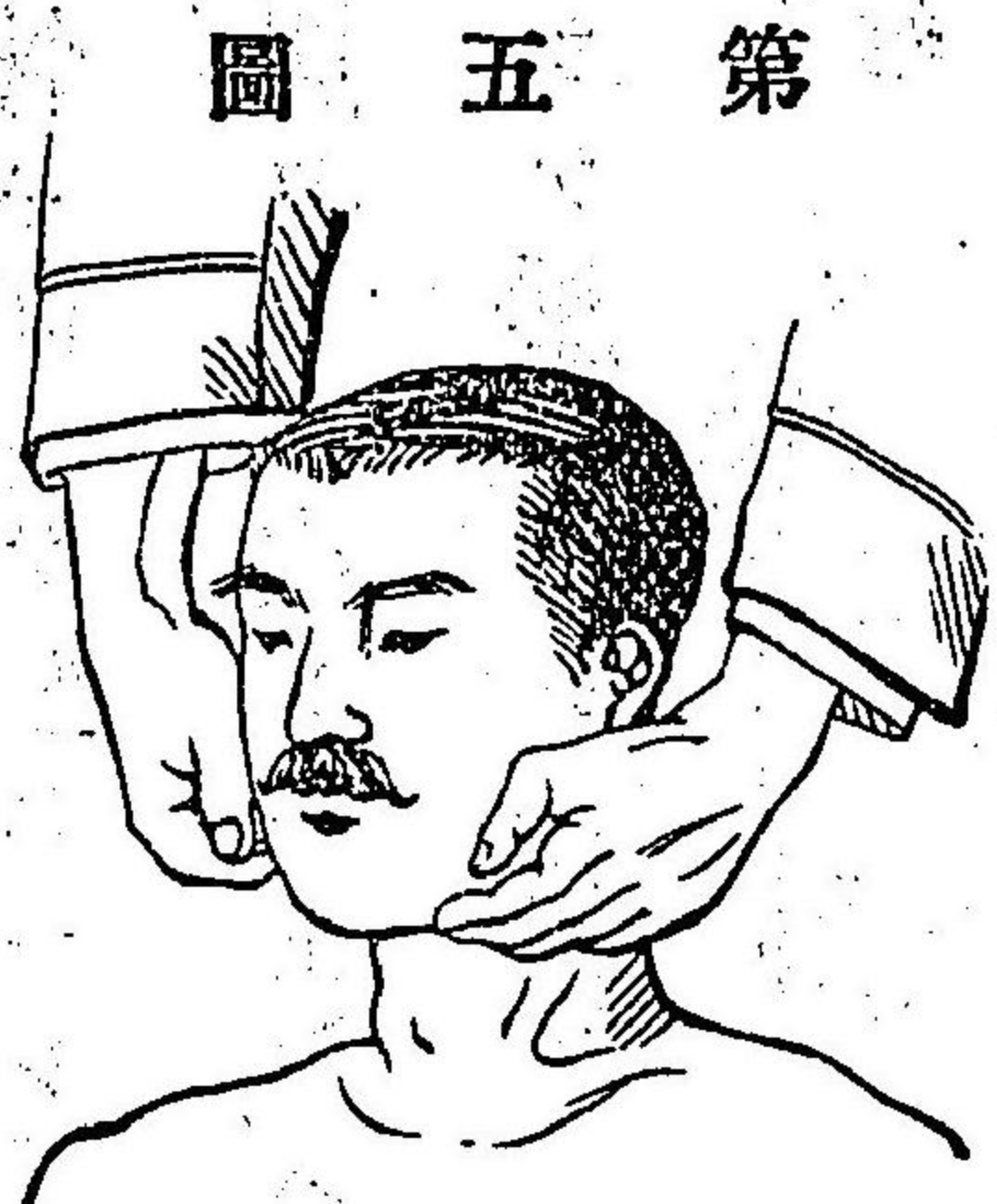


圖 五 第

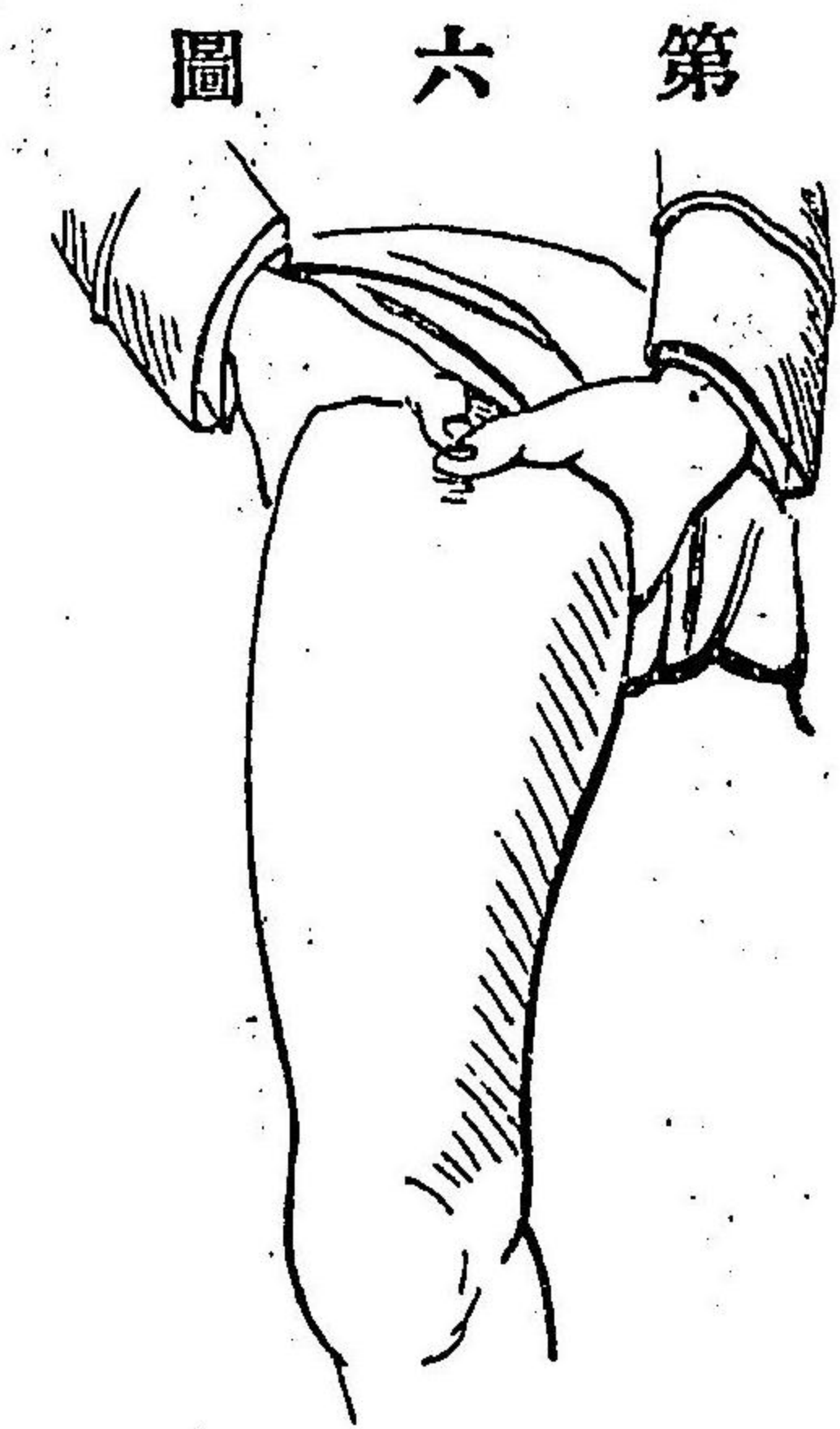
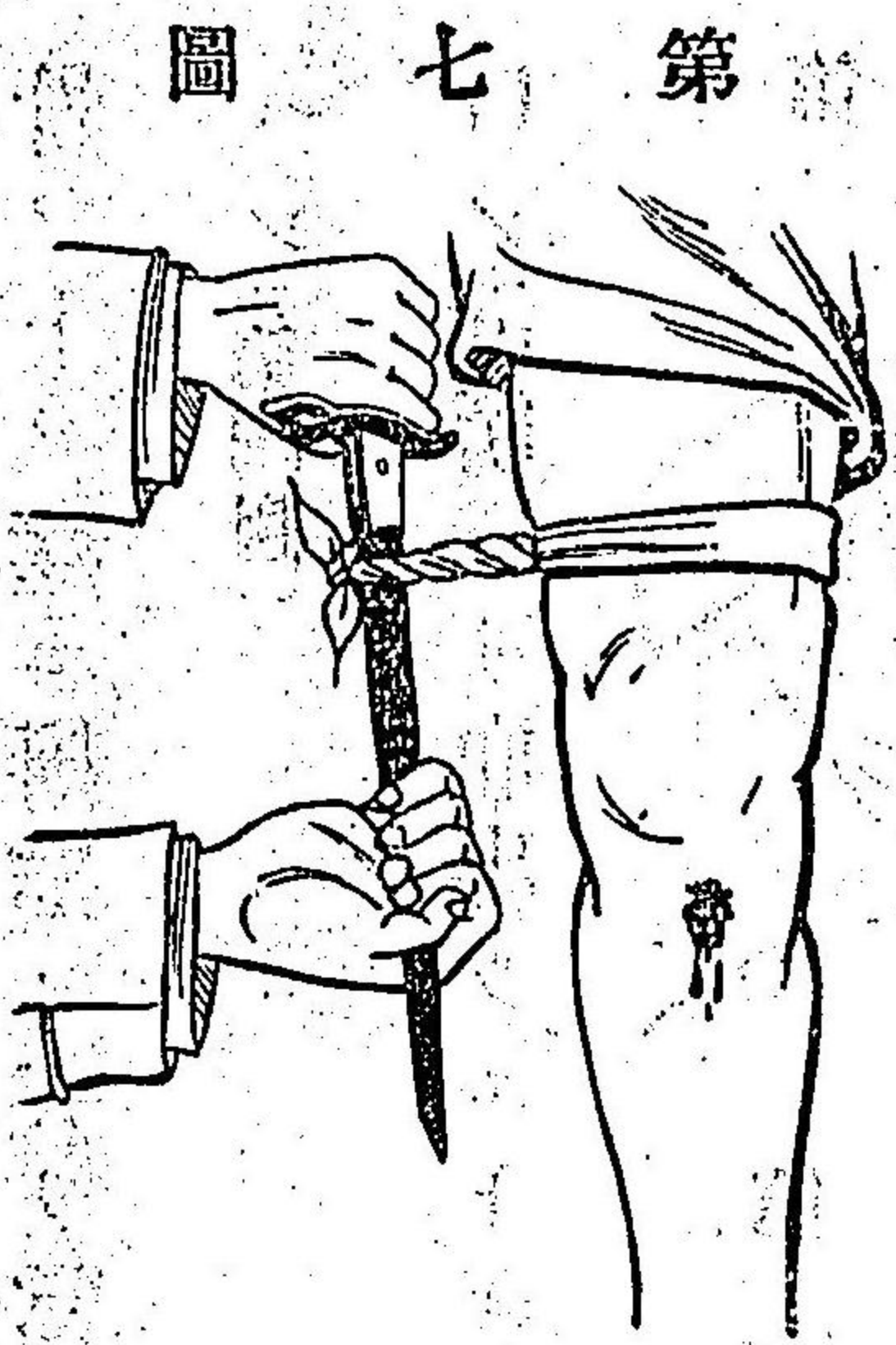


圖 六 第

骨ニ向ヒテ壓スヘシ(第五圖)

脚ヨリ血出ツルトキハ鼠蹊ノ中央ノ下ニ兩拇指ヲ當

テテ壓スヘシ(第六圖)



第一二 上肢又ハ下肢

ヨリ血出ツルコト甚

タ多キ爲指ニテ壓シ

テ補助擔架卒等ヲ待

第七圖

テトモ至ラサルトキハ創ヨリ上ノ脈ノ上ニ圓キ物ヲ  
當テ疊ミタル三角巾ノ類ニテ緩ク卷キ末端ヲ結ヒ之  
ニ棒ノ類ヲ挟ミ、廻シテ緊メ、血止マルニ至リテ挾  
ミタル物ノ一端ヲ止メ置クヘシ(第七圖)

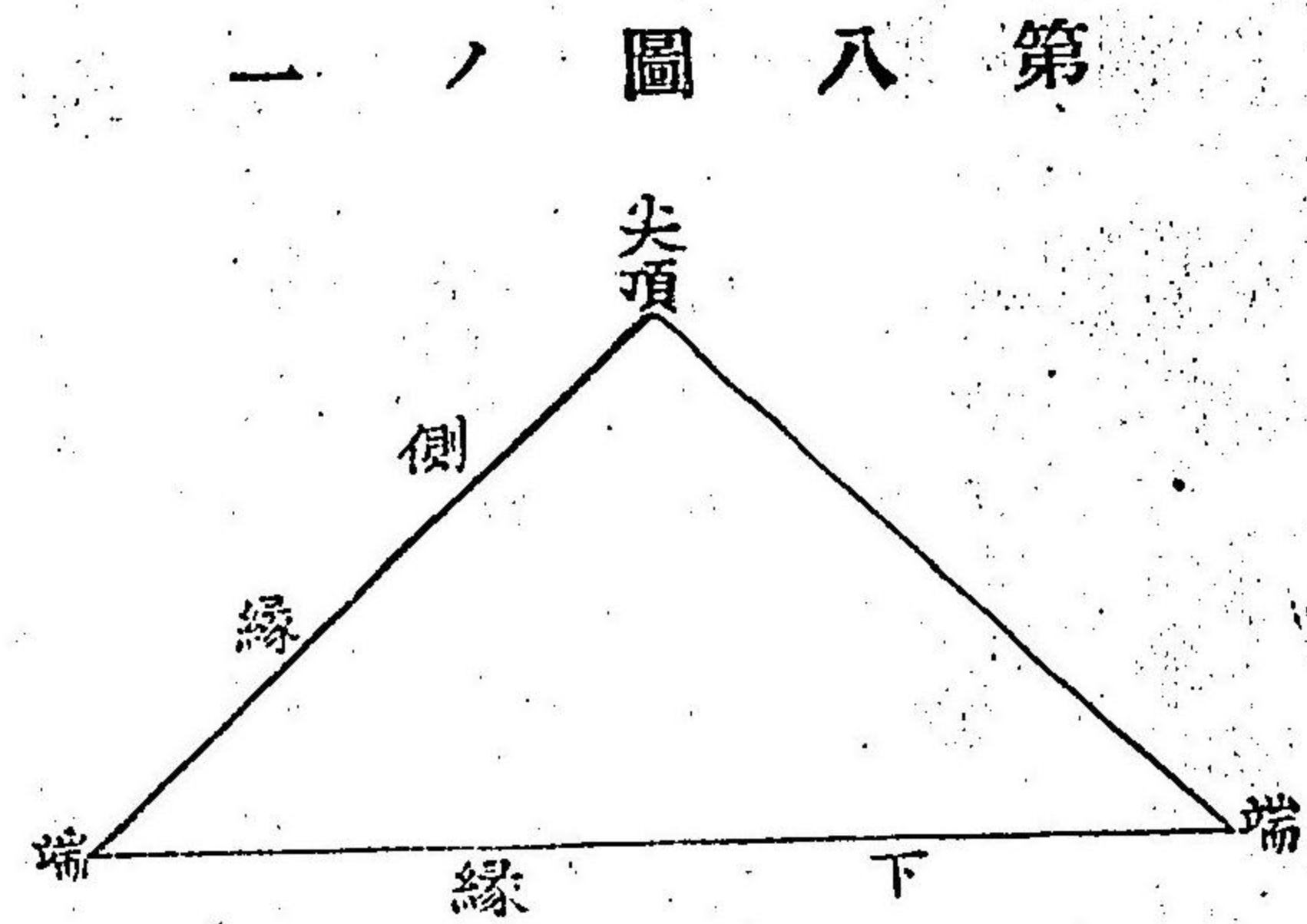
此ノ如ク緊メタル處ヨリ下感覺ヲ失ヒ冷ニナリ紫色  
ヲ帶フルトキハ脈ヲ指ニテ壓シテ卷キタル物ヲ緩メ  
暫クアリテ再ヒ緊ムヘシ

緊メテヨリ二時間ナルトキハ卷キタル物ヲ除キ若シ  
尙「ガーゼ」アラハ之ヲ創ニ當テ壓シテ補助擔架卒等  
ノ至ルヲ待ツヘシ

第二章 三角巾

第一三 三角巾ハ或ハ開キタル儘用井或ハ尖頂ヨリ順  
次ニ疊ミテ巾二寸許ノ帶トナシテ用井ルヘシ後ナル  
ヲ疊三角巾ト名ツク（第八圖ノ一）

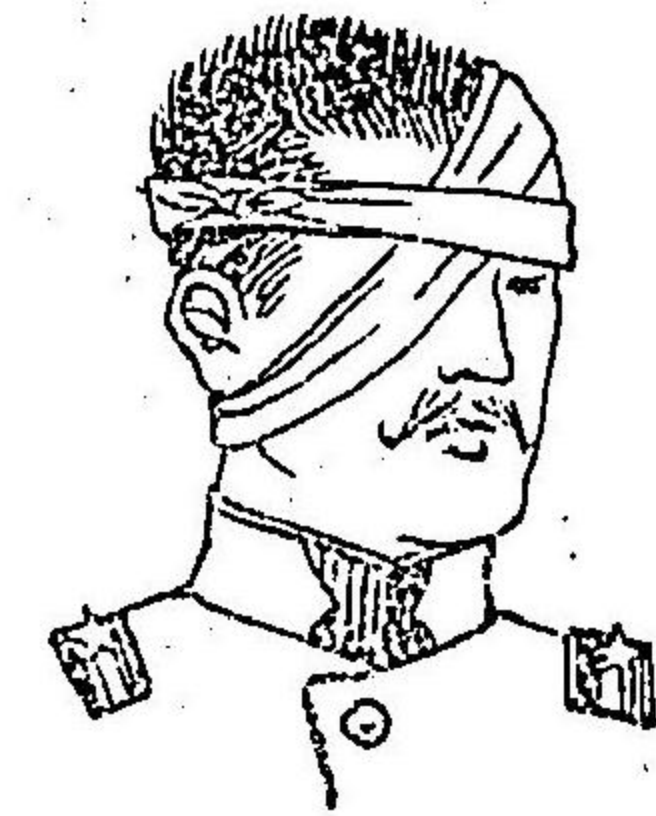
第一四 三角巾ノ卷方ハ身體ノ部位ニ隨ヒテ異ナリ左



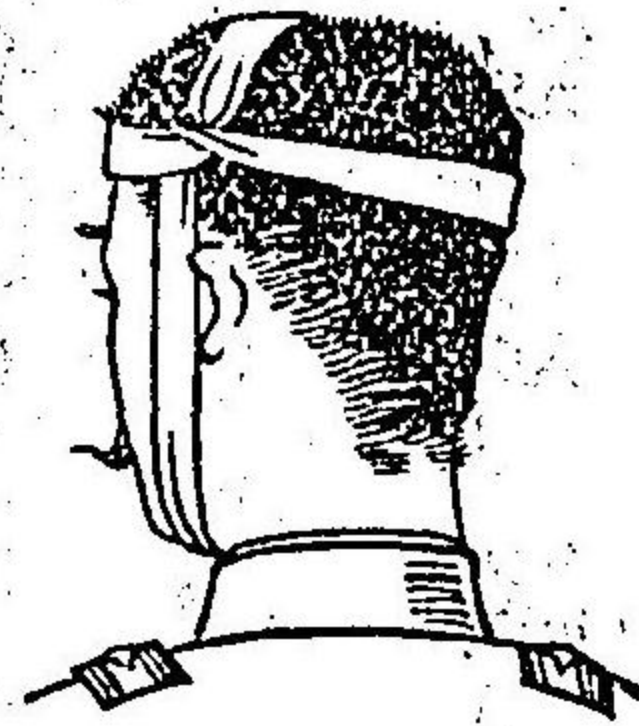
ノ如シ  
眼、耳、額、頰、顙、手、足  
ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨ノ折  
レタルニ棒ノ類ヲ副ヘテ括ル  
ニハ疊三角巾ヲ以テス（第八圖  
ノ六ニ至ル）



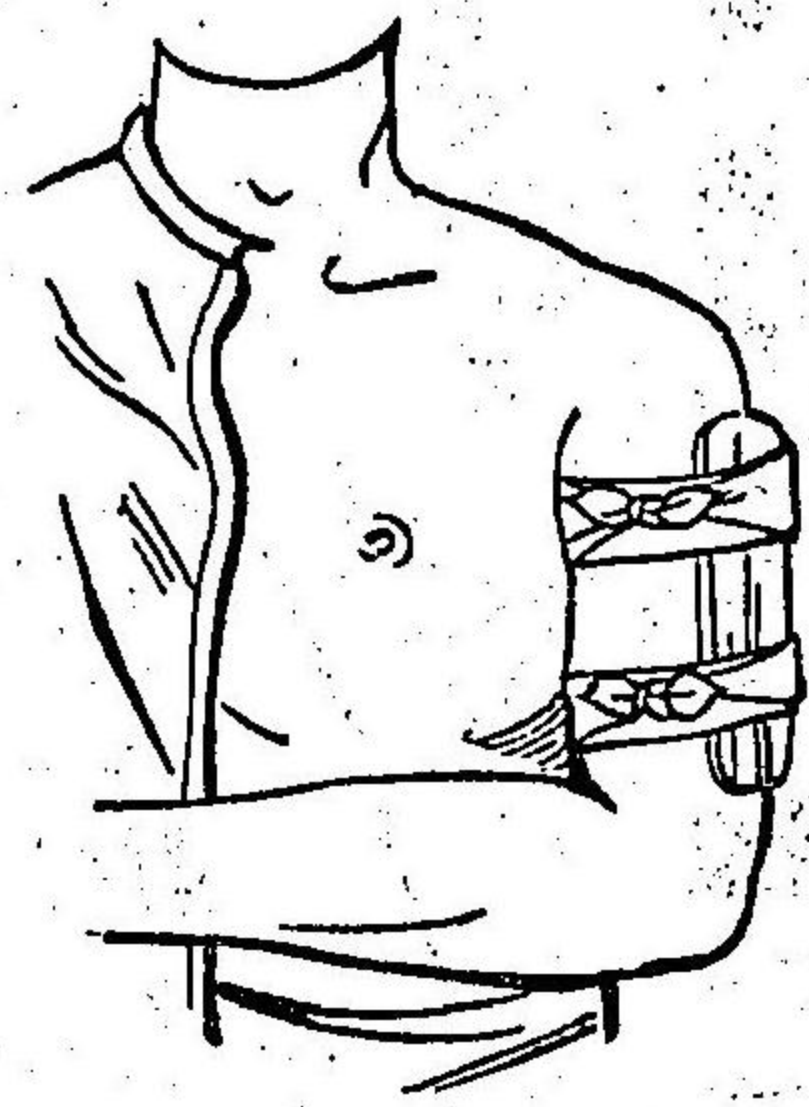
四ノ圖八第 二ノ圖八第



五ノ圖八第 三ノ圖八第



六ノ圖八第



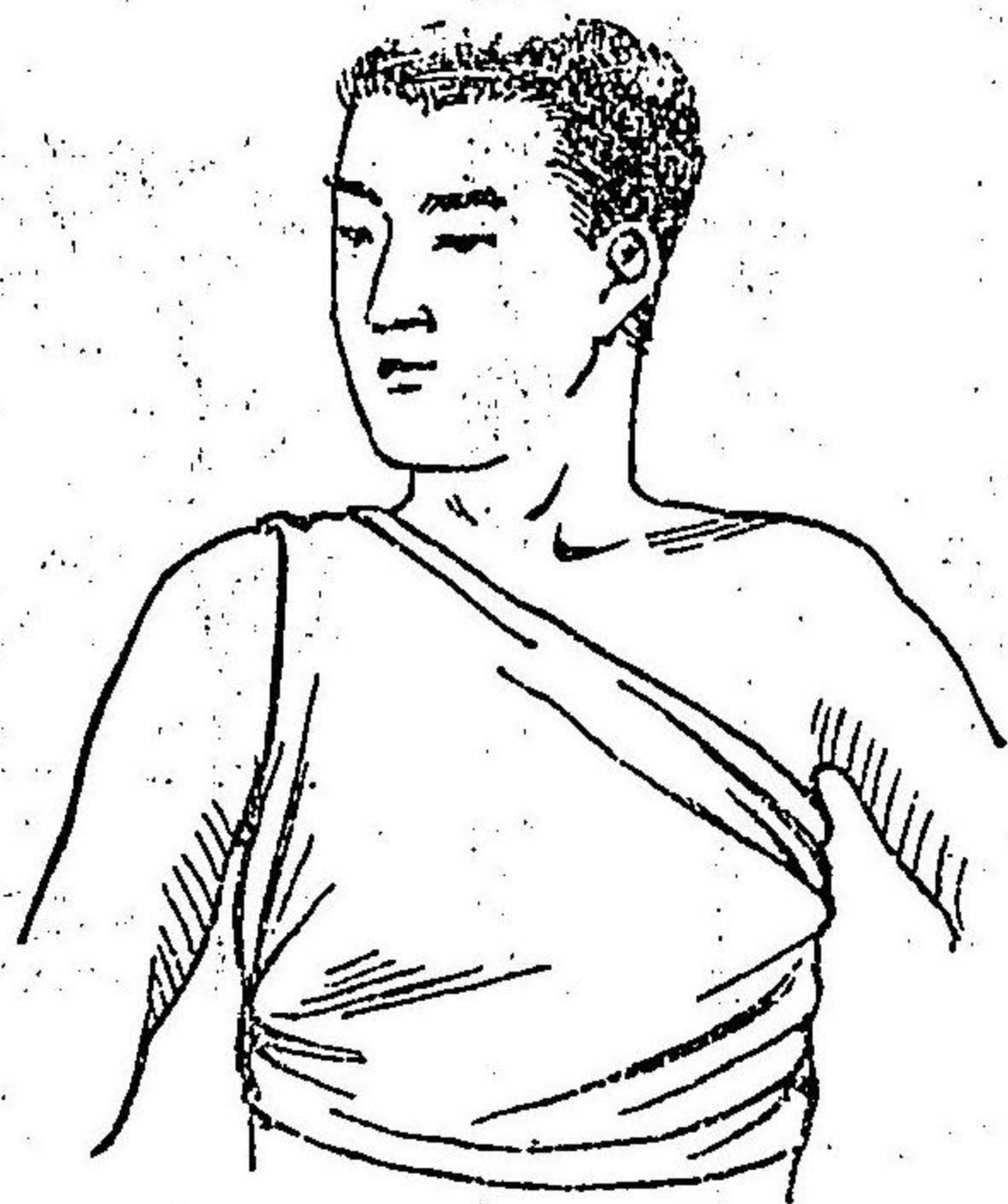
圖九第



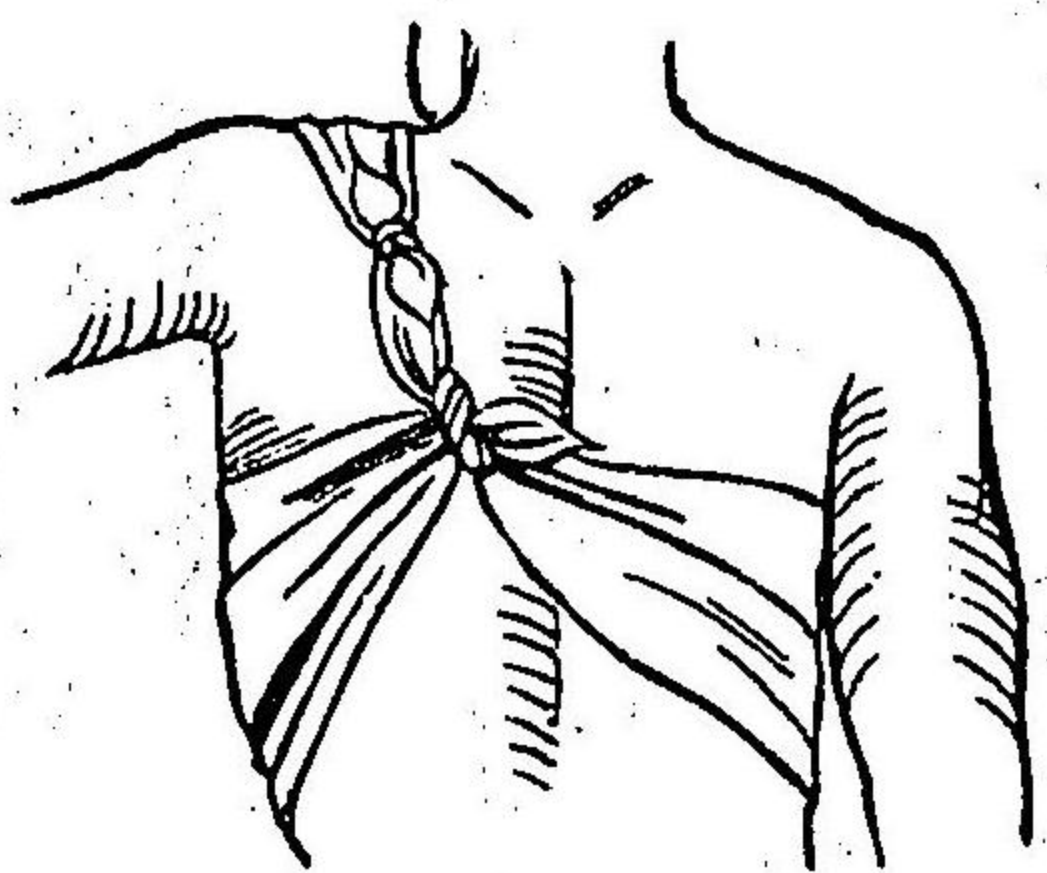
頭<sup>カシラ</sup>ノ創ヲ卷クニハ開キタル儘其ノ中央ヲ頭<sup>イタダキ</sup>ノ頂ニ置  
 キ下<sup>カエシ</sup>縁ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭ノ後ニ廻シ額ニ<sup>モト</sup>戻シ結ヒ  
 テ止メ後ニ垂<sup>タ</sup>レタル尖頂ヲ折リ反<sup>カヘ</sup>シテ頭ノ頂ニ至リ  
 巾<sup>キン</sup>ノ一端ト結ヒ合ハスヘシ(第九圖)

胸ノ創ニハ巾<sup>キン</sup>ノ中央ヲ胸ニ當テ尖頂ハ創側<sup>キズカハ</sup>ノ肩ヲ越<sup>コ</sup>

第十圖



第十一圖



サセテ後ニ引キ下縁ニテ胸ノ周圍<sup>マハリ</sup>ヲ纏<sup>マド</sup>ヒ(第十圖)兩端

ヲ左右ノ腋ノ下ヨリ背<sup>セ</sup>ニ廻シテ結ヒ更ニ肩ノ後ニ垂

レタル尖頂ト一端トヲ結フヘシ(第十一圖)

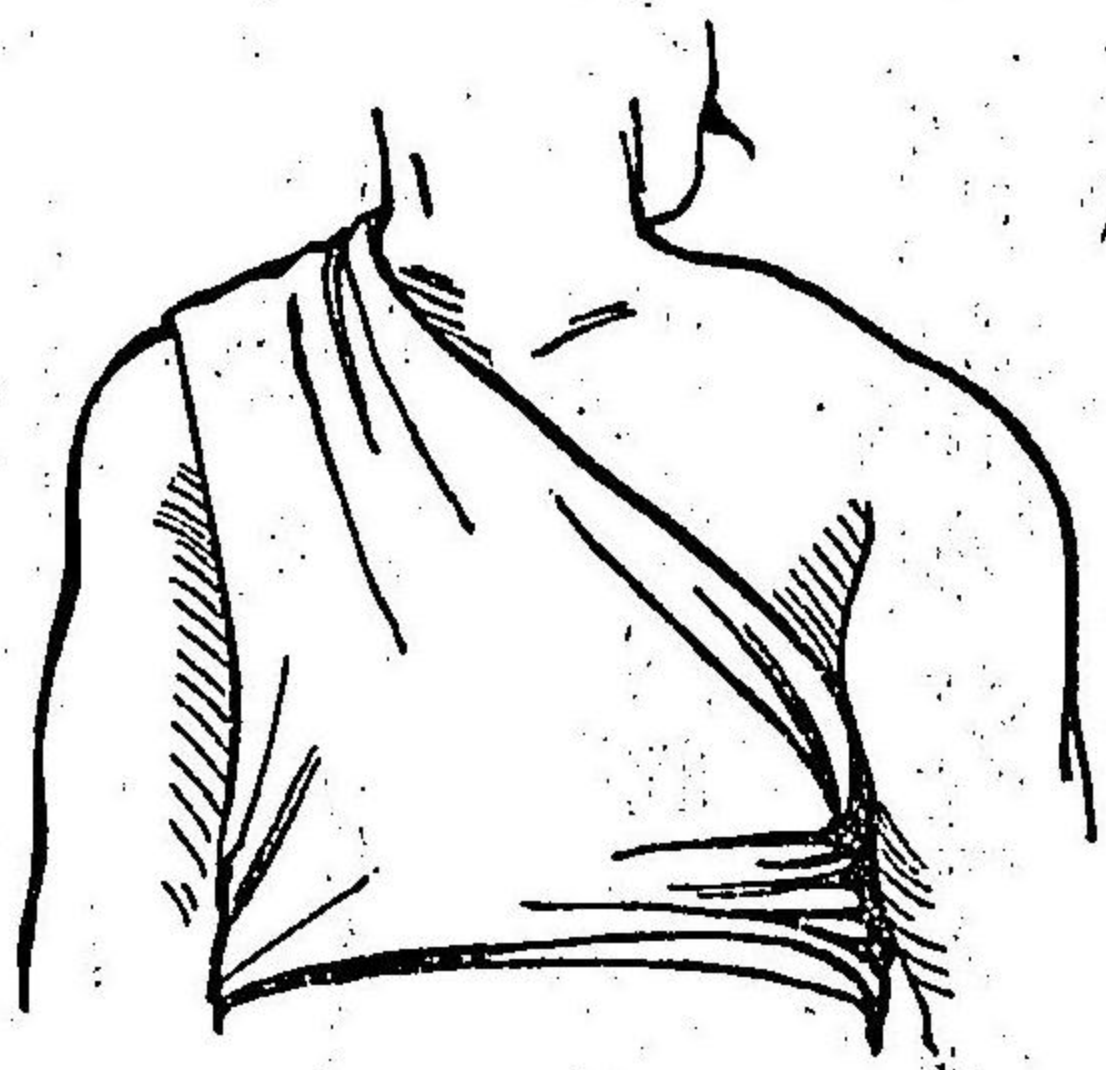
背ノ創ノ卷方ハ胸ノ創ニ同

シ唯<sup>タダ</sup>後ヨリ掩<sup>ヲホ</sup>ヒ前ニテ結フ

ヲ異ナリトス(第十二圖)

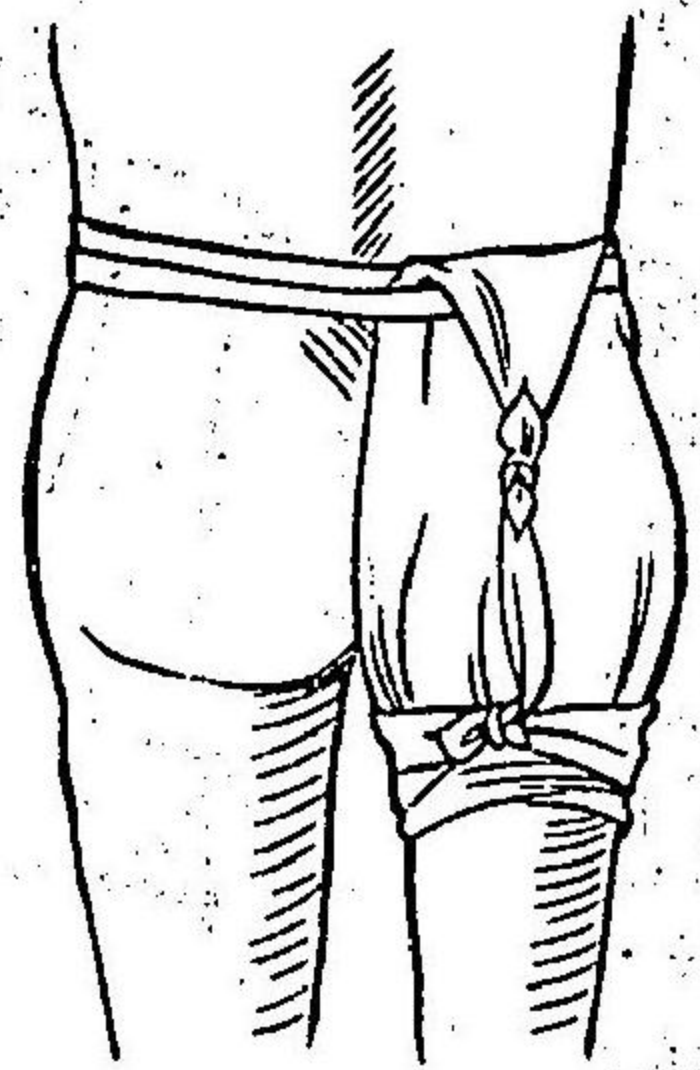
臀<sup>シリ</sup>ノ創ヲ卷クニハ尖頂ヲ上

第二十圖



ニ向ケ下縁ニテ太腿ヲ纏ヒ後上<sup>ノチ</sup>ニ向ケタル尖端<sup>フンドシ</sup>ヲ禪

圖三十第



ハスヘシ(第十三圖)

肩ノ創ノ卷方ハ臀ノ創ニ同シ

上肢若ハ下肢ノ骨折レタルトキハ棒ノ類ヲ當テ少ク

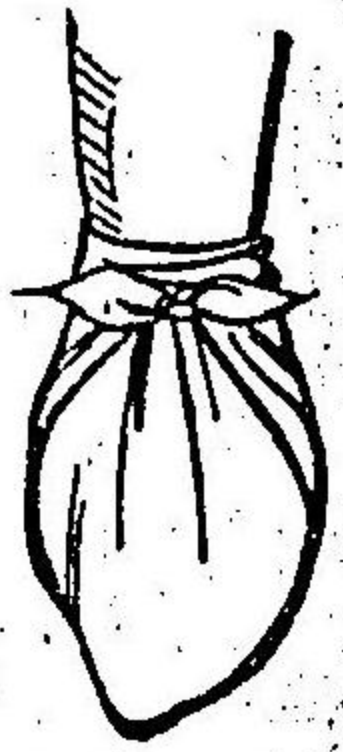
トモ二箇所ヲ結ヒ支フヘシ(第一圖及第八圖ノ六)

ノ紐ヒモ(又ハ腰ノ周圍ニ結ビ

タルケンタイ劍帶等)ノ下ニ通シ折

リ反シテ巾ノ一端ト結ヒ合

圖四十第



手ヲ被オホヒ次テ兩端ヲ廻シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ(第十四圖)

上肢ヲ胸ノ前ニ吊ルニ開キタル三角巾ヲ用井ルトキ

ハ一端ヲ創ナキ方ノ肩ヲ越エサセ背ニ垂レ置キ一端

ヲ胸ノ前ニ垂レ創アル上肢ノ前膊ヲ巾ノ中央ニ當テ

手ノ創ヲ卷クニハ三角巾ヲ二ツニ折り或ハ切りテ半巾ハシキ

トナシ其ノ下縁ヲ手首テノヒノ方ニ向ケ

テ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ折り反シテ

第十圖



尖頂ヲ肘ノ後ニ餘シ置クコ  
ト一、二寸前ニ垂レタル端  
ヲ前膊ノ前ヨリ上ニ向ケテ  
引キ創アル方ノ肩ノ上ニ送  
リ頸ノ後ニテ背ニ垂レタル

端ト結フヘシ(第十五圖)

疊三角巾ニテ吊ルニハ兩端ヲ結ヒテ環トナシ結ヒタ

第十六圖



ル處ヲ頸ニ掛クヘシ(第十六圖)  
足ノ創ノ卷方ハ手ノ創ト異  
ナルコトナシ

第三章 急病

其一 卒倒

第一五 背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ除キ空氣ノ流通好キ

處ニ臥サシムヘシ

室内ニテハ窓ヲ開キ室外ニテハ蔭アル地ヲ選フ

尋常臥サシムルニハ頭ヲ低クス顔赤キトキニ限り頭

ヲ高クシ之ヲ冷ス

聲高ク喚ヒ醒マシ鼻ノ穴ヲ刺戟シ醋ノ如キ臭強キモ

ノヲ嗅カシメ顔、胸ニ水ヲ灌キ額、顛顛ニ火酒ヲ塗

リテ摩リ胸、上肢、下肢ヲ毛織ノ布ニテ心ノ臍ノ方

ニ向ケテ摩リ胸、掌、蹠ヲ刷毛ニテ擦ル等場合ニ依

リ試ミテ可ナリ

吐クトキハ頭ヲ横ニ向クヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フ

ヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯茶又ハ水ヲ飲マシムヘシ

其二 火傷、電氣傷

第一六 人ヲ火ノ中ヨリ救ヒ出サントスルトキハ我衣

袴ヲ濡シ頭ト頸トニ濡シタル巾ヲ纏フヘシ

被服ノ燃ユル人ヲハ速ニ且靜ニ地ニ僵レシメ被服

寢具等ヲ以テ覆フヘシ

火傷、(湯傷) 電氣傷ハ徐ニ傷處ヲ露スヘシ衣片ノ皮

ニ膠著シタル處ハ強テ引キ離サス剪ニテ周圍ヲ切り

取ルヘシ

皮赤クナリタルノミナルトキハ水ニテ冷スヘシ

水泡ヲ生シタルトキハ薄皮ヲ破ルコト勿レ

皮爛レタルトキハ「ガーゼ」ニテ掩ヒ縋帶スヘシ「ガ

ーゼ」ナキトキハ新ナル布片ニ清潔ナル油ヲ塗り掩

フヘシ

指ハ一本毎ニ縋帶スヘシ

其三 喝病

第一七 背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ解キ空氣ノ流通好キ

處ニ臥サシムヘシ臥サシムルニハ蔭アル地ヲ選フヘシ

頭ヲ高クスヘシ

扇アブキノ類ニテ風ヲ送ルヘシ

顔、胸ニ水ヲ灌キ濡シタル布片ニテ胸ヲ覆フヘシ氷

アラハ手拭テアツヒニ包ミ頭、胸ニ當ツヘシ

上肢、下肢ヲ摩ルヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フ

ヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯茶又ハ水ヲ飲マシメ又醋

ノ如キ強キ臭アル物ヲ嗅カシメ再ヒ失心シツシンスルコトヲ

防クヘシ

醒メテ忽タチマチ眠ルモノハ生命危シ監視カンシヲ怠ルコト勿レ

喝病起オコルニ先サキダテ顔赤クナリ頭痛スルニ心附カハ早

ク喝病ノ處置ヲナスヘシ

其四 凍傷

第一八 豫防用ノ軟膏類アルトキハ鼻、耳、手ノ指、

足ノ趾ニ塗ルヘシ

紫色ニナリタル處ハ雪、氷若ハ冷水ヲ用井テ輕ク永

ク摩ルヘシ

水泡ヲ生シ又暗黒色ヲ呈スルトキハ處置火傷ト同シ

其五 凍沍假死

第一九 凍沍假死ハ膚ノ色蒼ク上下肢、耳、鼻等強ク

ナリテ倒ル

凍沍シタル人ノ體ハ折レ損シ易キカ故ニ觸レ動スニ

ハ温存ノ意アルヲ要ス

風ヲ受ケサル地又家屋アラハ冷ナル室ニ移スヘシ

被服ヲ除クヘシ



雪ニテ又ハ水ニ浸シタル布ニテ輕ク摩ルヘシ

體柔ナルニ至ラハ冷ナル寢具ノ上ニ移シ乾キタル毛

織物又ハ布片ノ類ヲ以テ全身ヲ摩ルヘシ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘ

シ

醒メタルトキハ微温ナル湯茶ヲ飲マシメ次テ酒類ヲ

飲マシムヘシ

寢具ヲ被フニハ次第第三厚クシ室ヲ煖ムルニハ徐ニ煖

ムヘシ

其六 湯水

第二〇 被服ヲ除クヘシ

淨キ布片ヲ示指ニ纏ヒ口ト咽トノ泥土等ヲ撈ヒ出ス

ヘシ

次ニ腹ニ丸メタル被服ヲ當テ又ハ腹ヲ我膝ニ當テテ

俯<sup>フ</sup>サシメ掌ヲ溺者ノ額ニ當テテ首ヲ反<sup>フ</sup>ラセ背ヲ打<sup>チ</sup>  
水ヲ吐カシムヘシ

體ヲ倒<sup>サカサマ</sup>ニ吊ルハ不可ナリ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘ

シ

其七 窒息

第二一 室内ニ炭氣<sup>タンキ</sup>、瓦斯<sup>ガス</sup>等溢<sup>ア</sup>レタルトキハ戸ヲ開ク

ヘシ要スルトキハ扉<sup>トビラ</sup>ヲ壞<sup>コボ</sup>ツコトヲ得

瓦斯溢<sup>ア</sup>レタル室ニハ火ヲ携<sup>タツ</sup>フヘカラス

井<sup>井</sup>、窖<sup>アナクラ</sup>、坑道<sup>カウダウ</sup>ノ中ニ有害氣類<sup>イウガイキル</sup>アルトキハ布ノ類ヲ振<sup>フ</sup>

リ動シ又ハ開キタル傘<sup>カラカサ</sup>ニテ換氣<sup>クワンキ</sup>ヲ圖<sup>ハカ</sup>ル等ノ手段<sup>シュダン</sup>ヲ試

ミルヲ要ス

差シ入<sup>シ</sup>レタル燭火<sup>ショクカ</sup>ノ滅<sup>キ</sup>ニルハ尙有害氣類ノ殘<sup>ノ</sup>レル徵

ナリ

救助ノ爲ニ之ニ入ルニハ醋ニ浸シタル布又ハ海綿ヲ  
口ニ當テ救助索ヲ胸ト肩トニ結ヒ手ニ信號索ヲ結ヒ  
テ入ルヘシ

救ヒ出シタル人ヲハ通氣好キ處ニ置キ顔ト胸トニ水  
ヲ灌キ又ハ水ニ浸シタル布片ヲ當ツヘシ  
要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

第八 埋没假死

第三二 埋没者ヲ救ヒ出サントスルトキハ土ノ再ヒ崩

ルルコトアルヲ慮ルヘシ

體ヲ動かストキ容易ニ知リ難キ處ノ骨折レタルコト

アルヲ慮リ温存ニ注意スヘシ

鼻、口、咽ノ土等ヲ除クヘシ

次テ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

其九 咬傷、螫傷

第二四 創ノ周圍ヲ輕ク壓シテ血ヲ出スヘシ

創ニ「ガーゼ」ヲ當テテ繃帶スヘシ

上下肢ヲ咬マレ又ハ螫サレタルトキハ創ヨリ心ノ臟

ニ近キ處ヲ括ルヘシ

其十 中毒

第二五 自ラ吐カサルトキハ指ノ尖若ハ羽ニテ咽ヲ刺

戟シ又多ク微温湯、鹽湯ヲ飲マセ吐ヲ促スベシ

生卵、牛乳、食用油、「バタ」若ハ湯茶ハ毒ヲ稀クス

ル功アリ但シ燐、斑猫ノ毒ニハ牛乳、油、「バタ」ヲ

禁ス

第四章 人工呼吸法

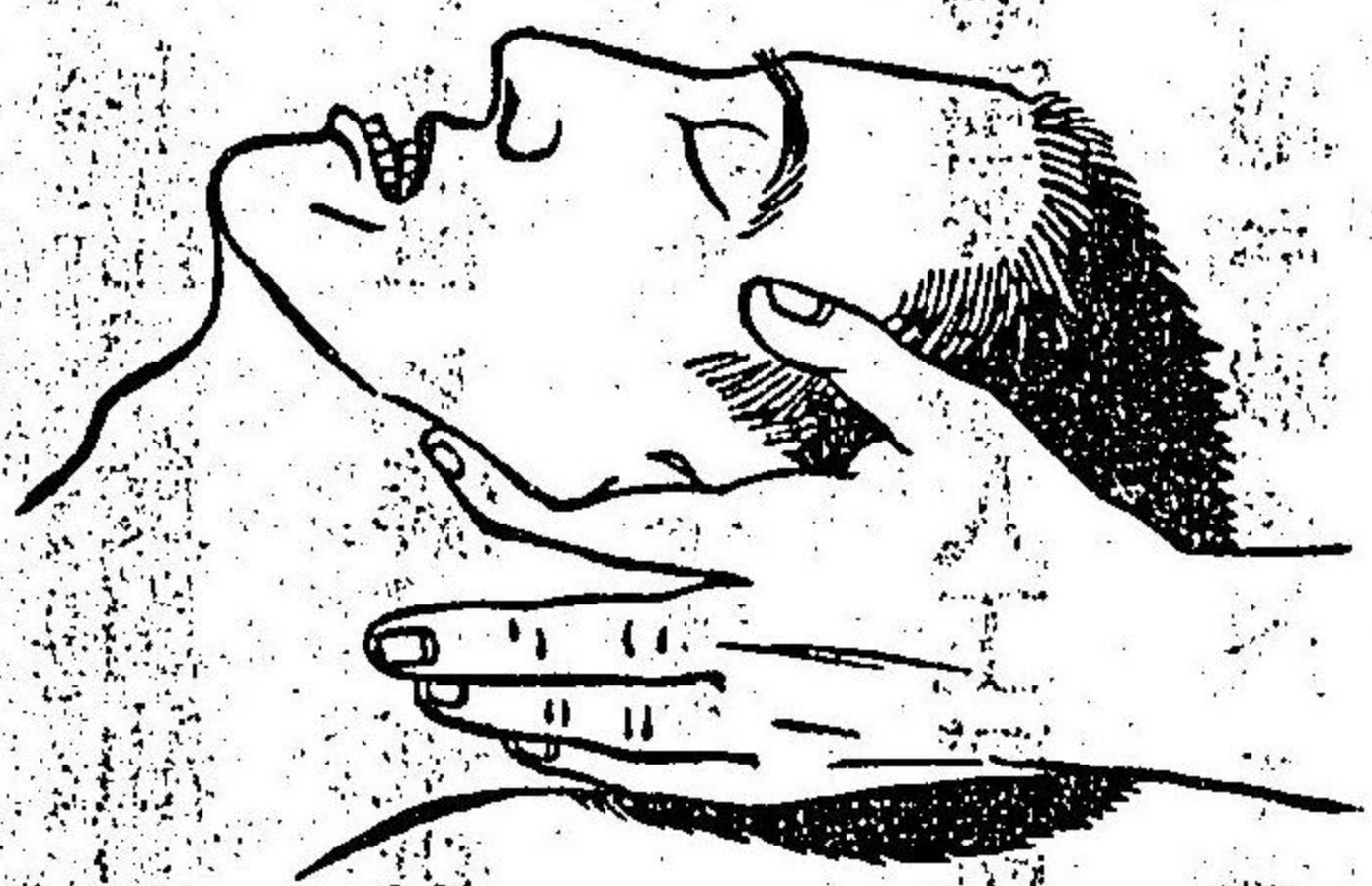
第二六 地ニ敷クヘキモノアラハ敷クヘシ

衣ヲ脱カセ袴ヲ開キテ仰キ臥サシメ被服ノ類ヲ卷キ

タルヲ背ニ挿ミ胸ヲ高クシ頭ヲ低クヘシ

兩上肢ハ頭ノ上ニ頭ヲ押ヘタル形ニ置クヘシ(第十七

圖ノ二)



第一ノ圖七十第

乙救助者アラハ頭ノ前ニ跪キ下顎ノ角ヲ推シテ下ノ齒列ヲシテ上ノ齒列ヨリ前ニ出テシムヘシ(第十七圖ノ一)乙救助者ナクハ甲救助者舌

第二十圖ノ二



ヲ引キ出シテ布片ニテ頤ニ括リ附クヘシ又ハ絲ニテ舌ヲ縛リ絲ヲ項ニ廻シテ結ヒ或ハ舌ヲ箸ノ如キ二本ノ棒ニテ挾ミ兩側ヲ縛リ棒ノ端ニテ頤ニ支ヘ口ヨリ出シ置クヘシマアハ甲救助者ハ假死者ノ腰ニ跨カリテ跪キ兩手ノ掌ヲ開キ假死者ノ

兩脇ノ下端ニ當テ自己ノ身ヲ伏セツツ肋ヲ絞ル様ニ  
壓スヘシ(第十七圖ノ二)

暫クシテ甲救助者ハ急ニ身ヲ起シツツ兩手ヲ放ツヘ  
シ

此ノ動作ハ間ヲ置キテ反覆スルヨト凡一分間ニ十六  
度ナルヘシ

又此ノ動作ハ假死者自ラ息スルニ至ル迄續クヘシ時

ハトシテ一時間以上續ケテ功アルコトアリ早ク見捨

テツヘカラス

此ノ動作ハ救助者ノ胸ニ入テ救助者ノ胸ニ入

テ救助者ノ胸ニ入テ救助者ノ胸ニ入

第三ノ動作ハ救助者ノ胸ニ入テ救助者ノ胸ニ入

第一ノ動作ハ救助者ノ胸ニ入

第二ノ動作ハ救助者ノ胸ニ入

第二編 衛生法大意

第一章 傳染病ノ豫防

第二七 傳染病ハ創ノ瘡<sup>イ</sup>ニ妨<sup>サマタ</sup>クル病原菌ト似<sup>ニ</sup>タル

種々<sup>ヒト</sup>ノ小サキ生物<sup>イキモノ</sup>アリテ體ニ入ルニ由リテ起ル豫防

法トハ此ノ生物ヲ體ニ入ラシメサル法ナリ

第二八 傳染病ヲ豫防スルニハ清潔ヲ保持<sup>ホウヂ</sup>スヘシ

室<sup>ヘヤ</sup>、被服<sup>ヒフ</sup>、寢具<sup>シメツグ</sup>及身體<sup>シンタイ</sup>ハ清潔ニ保持スルヲ要ス

殊ニ手ヲ屢洗<sup>シバシバ</sup>フヘシ

人ヲ手拭ヲ借ルコト勿レ

人ノ寢具ヲ著<sup>キ</sup>ルトキハ顔、頸ニ當タル處ニ手拭ヲ被

フヘシ

第二九 咳<sup>セキ</sup>アル人ニ近ツキテ呼吸スルハ危<sup>アヤシ</sup>シ

塵ヲ起<sup>オコ</sup>スハ危シ

第三〇 飲食<sup>インシヨク</sup>物ニ非サルモノヲ口ニ入ルルコト勿レ書<sup>シヨ</sup>

指ヲ讀ムトキ指ヲ舐リ鉛筆、毛筆ノ軸等ヲ口ニ入ルル

ハ危シ

指ニテ目ヲ摩ルコト勿レ

第三一 水ハ成ルヘク飲ムコト少キヲ可トス

十分ニ煮タル湯茶ハ害ナシ

一旦煮タル湯茶モ淨メサル器ニ盛り又ハ掩ハサル器

ニ盛りテ時ヲ經ルトキハ危シ

生牛乳ヲ飲ムヘカラス

第三二 食物ハ十分ニ煮タルモノヲ可トス

第三三 蠅ノ止マリタル飲食物ヲ飲食スルコト勿レ

蠅ハ努メテ撲ケ殺スハシ

第三四 腐リタル疑アル飲食物ヲ飲食スルコト勿レ

獸肉ハ腐ルトキ色變リ指ニテ壓ストキ指ノ痕ヲ留ム

魚ハ腐ルトキ目濁ル



總テ肉類ハ腐ルコト甚シキトキ臭アリ

腐リタル肉ノ毒ハ糞テモ滅セサルコトアリ

米ニ黴<sup>カビ</sup>ヲ生シタルハ危シ

粉<sup>コ</sup>ハ握<sup>ニギ</sup>リテ放ツトキ直<sup>タダチ</sup>ニ散セサルヲ腐リタル黴<sup>カビ</sup>トス

第三五 室内ノ通氣ヲ好クスベシ

泥靴<sup>ドロゾウ</sup>ヲ室内ニ入ルヘカラス

室ノ内外、人ノ手ノ多ク觸ルル箇所ハ病原菌ノ著<sup>ツ</sup>キ

居ル虞アリ

第三六 乾カスコトハ豫防ノ功アリ

被服、寢具、陣營具<sup>ゼンエイゾウ</sup>、私物<sup>シモノ</sup>、室内總テ乾キ居ルコト

ニ注意スヘシ

第二章 傳染病ノ種類

其一 虎列刺

第三七 虎列刺ノ病原菌ハ吐キタル物、下<sup>クダ</sup>シタル物ノ

中ニアリ

此ノ菌ハ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル

又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ

患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニアリシ

爲病原菌ヲ宿シ居ル人ニ近ツクハ危シ

生ノ野菜、熟セサル果ノ類ヲ食フトキハ虎列刺ニナ

リ易シ

第三八 虎列刺ニナリタル人ハ腹痛ヲスシテ下シ次テ

吐ク

下ス物後ニハ米ヲ洩キタル汁ノ如クナル

幾モナク目窪ミ目ノ縁ニ鉛色ノ暈ヲ生シ鼻尖リ聲嘎

レ膚冷ニナリテ撮ミ上クシハ麩ヲホシ故ニ復ラス

渴甚シ

小便少シ

腓腸痛ム

其二 赤痢

第三九 赤痢ノ病原ハ菌ト菌ニ非サル小ガキ生物トノ

二種アレト何レモ下シタル物ノ中ニアリ

此ノ病原モ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル

又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ

患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニアリシ

爲病原ヲ宿シ居ル人ニ近ツクハ危シ

生ノ野菜、熟セサル果ノ類ヲ食フトキハ赤痢ニナリ

易シ

第四〇 赤痢ニナリタル人ハ腹劇シク痛ミテ下シ、下

シタル後忽チ又腹絞リテ下サントス下ス分量ハ次第

ニ少クナル

下ス物後ニハ糊ノ如クナリ血ヲ雜フ

赤痢ハ一タヒ治シテモ再發シ易シ

其二 腸窒扶私

第四一 腸窒扶私ノ病原菌ハ大小便ノ中ニアリハ此ノ菌モ水ニ飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ患者ノ病已ニ治シテ尙菌ヲ宿シ居ルモノ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニアリシ爲菌ヲ宿シ居ル人ニ近ツ

クハ危シ

第四二 腸窒扶私ニナリタル人ハ熱アリテ約四週間續

クハ

熱ヲ爲精神鈍クナリ讒語ヲ言ヒ甚シキハ狂人ノ如キ

舉動ヲ辨スコトアリ

胸腹背ニ細キ桃色ノ疹ヲ生ス

其四

第四三 「ペスト」ノ病原菌ハ此ノ病アル鼠ノ糞、溺、

患者ノ腫物ノ膿、大小便ノ中ニアリ

病胸ニ附キタルトキハ咳ニテ飛ヒ出ツル痰ノ中ニ菌

アリ

菌ハ皮ノ小サキ創ヨリ入ル

蚤ニ菌アリテ此ノ病ヲ傳フルコトアリ

痰ノ中ニ菌アルトキハ息ニテ吸ヒ込ム

鼠ヲ狩リ取ルヘシ死シタル鼠ヲ見出ヌトキハ手ヲ觸

レシテ衛生部員ニ告クヘシ

第四四 「ペスト」ニナリタル人ハ菌ノ入りタル創ヨリ

心ノ臟ニ近キ處ニ腫物ヲ生ヌ

熱アリテ顔赤ク歩ムニヨロメキ醉ヒタル人ニ似タリ

病胸ニ附キタルトキハ咳アリテ痰ニ血ヲ雜フ

第四五 以上四病ニ痘瘡、發疹、猩紅熱、實扶

的里ヲ加ヘタルモノヲ法律ニテ傳染病ニ定ム

其五、麻刺里亞ハ世ニ謂フ瘧疾ニ其ノ病原タル小サ

第四六、麻刺里亞ハ世ニ謂フ瘧疾ニ其ノ病原タル小サ

キ生物ハ血ニ在リ蚊ハ一種患者ノ血ヲ吸ヒ居リテ他

以テ人ヲ螫ストキ傳染ス

此ノ病ヲ避クルニハ蚊ニ螫サレサルヤウニスヘシ

ト云フ藥ヲ服シ居レハ蚊ニ螫サレテモ病

起ラサルコトアリ

第四七、麻刺里亞ニナリタル人ハ時ヲ隔テテ熱ヲ發ス

熱ノ前ニハ寒ヲ覺エテ體震ヒ熱ノ後ニハ汗出ツ

病ムコト久シキトキハ色蒼クナル

其六、結核

第四八、結核ノ胸ニ附キタルハ世ニ謂フ肺病ナリ其ノ

病原菌ハ患者ノ痰、同シ病アル牝牛ノ乳汁ニアリ

患者「ハンカチーフ」ヲ口ニ當テスシテ咳ヲナストキ  
ハ痰ノ雫飛ヒ出ツ向ヒ合ヒタル人之ヲ息ニテ吸ヒ込  
ミ傳染スルコトナリ

痰乾キテ塵ニ雜リ又物ニ乾キ附キ居ルヲ口ニ入ルル  
症キ此ノ病ニナルヲ常トス指シテ食器等ニテ口ニ入ル  
ルコト多シ里亞ニテハ人ハ細キ菌ヲ食テ發ス  
此ノ病アル牝牛ノ乳ヲ生ニテ飲ムトキモ此ノ病ニナ

ル菌ハ咽ヨリ頸ノ腺ニ入り居リ、以テヨリ血ニ入り  
テ胸ニ附ク

第四九 結核ニナリタルトキハ色蒼ク其ヲ咳出テ腹ヲ

下シ熱出ツル等ノ徵アリ

久シクナレハ痰ニ血ヲ雜ヘ又血ノミヲ咯ク

後ニハ熱日日出テ寢汗出ツハ此ノ病ニ關スル

其七 花柳病

第五〇 花柳病ハ淋病、下疳、梅毒ノ三種アリ

第五一 淋病、下疳ノ病原菌ハ此ノ病ノ附キ居ル處ヨ

リ出ツル汁ニアリ

患者ト性交ヲナストキ傳染スルヲ例トス

病、目ニ附キ居ルトキハ目ヨリモ傳染ス

第五二 梅毒ノ病原菌ハ患者ノ全身ニアリ

患者ト性交ヲナストキ傳染スルヲ例トス

菌ハ患者ノ唾ニモアリ疹ニモアルガ故ニ患者ニ觸レ

タルノミニテモ傳染スルコトアリ

親ヨリ子ニ傳フ

第五三 壯年ノ人久シク性交ヲ斷テ居ルトキハ健康ヲ

害スト云フモノアレトモ誤ナリ信スヘカラス

其八 「トラホーム」

第五四 「トラホーム」ノ病原菌ハ患者ノ目ヨリ出ツル



汗ニアリ

指、手拭、洗面器、被服、寢具等ニテ傳染ス

人ノ手拭ヲ借ラサルハ勿論、私物ノ洗面器ヲモ持テ

居ルヲ利アリトス

水管ヨリ流れ出ツル水ヲ掌ニ承ケテ洗面スルトキハ

傳染ノ虞ナシ

第五五 「トラホーム」ハ衛生部員ヲテハ他ノ眼病ト

別ヲ難シ

第三章 雜件

第五六 眠ルコトヲ許サル時間ニハ十分ニ眠ルヘシ

第五七 靴傷ヲ防ク爲足ト靴下トヲ清潔ニ保持スヘシ

靴ハ脂ヲ塗リテ軟ナラシムヘシ

豫防用ノ軟膏類アルトキハ行軍ニ先タテ足ニ塗ル

ヘシ

靴下ニ皺<sup>シラ</sup>ナカラシメ縫目ヲ外<sup>ソト</sup>ニシテ穿クヘシ

靴ヲ穿クトキ底革<sup>ソコガハ</sup>後革<sup>ウシロガハ</sup>ヲ卷キ込ムコト勿レ

靴紐<sup>クツヒモ</sup>ヲ締<sup>シメ</sup>ムルコト緊<sup>カタ</sup>キニ過クルコト勿レ

休止ノ時又ハ宿營ニ就キタル時ハ足、殊ニ足ノ趾ノ

間ヲ洗フヘシ濡レタル靴下ハ穿キ換フヘシ

皮赤クナリタルトキハ水ニテ冷シ又ハ火酒ヲ塗リテ

功アリ

第五八 鞍傷<sup>クラズレ</sup>ヲ防ク爲臀及太腿ノ内面ハ清潔ニ保持ス

前袴下ハ乾キタル者ヲ用非鞍<sup>クラ</sup>ニ接ス部ハ皺ヲカラシ

皮赤クナリタルトキノ處置ハ靴傷ニ同シ

第五九 寒キ時ヲ休止ニハ耳、手ヲ擦脚足踏<sup>アシツマ</sup>スヘシ

寒地ニテ寒甚シク凍死<sup>シ</sup>ノ虞アルハ多クハ氣温ノ

低キニ因ラヌシテ風アルニ因ル故ニ風ヲ障<sup>サシ</sup>フル處ヲ  
求メ又ハ作リテ靜止スヘシ此ノ如キ時ニハ足踏等ハ  
功ナシ

寒甚シキトキハ金屬<sup>キンゾウ</sup>ニ觸レテ傷ヲ受クル虞アリ

第六〇 熱地ニテ喝病<sup>カクビョウ</sup>ノ虞アルハ氣温ノ高キ爲<sup>タメ</sup>ニ  
アラスシテ空氣濕<sup>ウレホ</sup>ヒ風ナキニ因ル此ノ如キ場合ニ劇<sup>ゲキ</sup>  
動ヲ要スルトキハ特ニ喝病ニ對シテ注意スヘシ

麻刺里亞ヲ傳フル蚊ハ三百乃至四百歩以外ニ飛ヒ行  
カサルヲ例トス故ニ麻刺里亞ニナリ居ル土人ノ家屋  
ヲ稍離ルルトキハ傳染ヲ免ル

明治四十一年九月一日印刷  
明治四十一年九月三日發行

發行兼  
印刷者

東京市麴町區華町四番地

小林又七

(電話番町千六百二十九番)

陸軍省構内

印刷所

小林又七出張所

(電話新橋九百四十二番)

東京市麴町區華町廿、廿一番地

印刷所

小林又七支店

(電話番町百九十一番)

東京市麴町區華町四番地

發賣所

川流堂本店

(電話番町千六百二十九番)  
振替貯金口座二百九十六番

陸軍省  
檢閱濟

明治四十一年九月一日印刷  
明治四十一年九月三日發行  
發行兼印刷者  
東京市麴町區華町四番地  
小林又七  
(電話番町千六百二十九番)  
陸軍省構内  
印刷所  
小林又七出張所  
(電話新橋九百四十二番)  
東京市麴町區華町廿、廿一番地  
印刷所  
小林又七支店  
(電話番町百九十一番)  
東京市麴町區華町四番地  
發賣所  
川流堂本店  
(電話番町千六百二十九番)  
振替貯金口座二百九十六番

新刊廣告

陸軍省人事局御編纂(四十一年七月一日調)

◎陸軍 現役將校 實役停年名簿

正價金 壹圓  
郵稅金 貳拾錢

◎陸軍 豫備役後備役 實役停年名簿

正價金 壹圓  
郵稅金 貳拾錢

陸軍會計監督部御編纂

◎陸軍 里程表

◎陣營具定數表

◎救急法及衛生法大意

陸軍省經理局御編纂(計手勤務教科用)

◎陸軍經理提要

定價金 參拾五錢  
郵稅金 六錢

四十一年八月改正

◎陸軍省所管歲出科目解疏

陸軍被服本廠御編纂

◎被服材料學教程草按

第一編 地質原料  
第二編 地質製造  
第三編 地質及製品製作材料之檢查

同

◎同

第四編 皮革原料  
第五編 皮革製造  
第六編 皮革及製品製作材料之檢查

同

◎同

第七編 被服製作補助材料

◎地形學綱要

ポケット入製本總皮製

◎軍事學範式

◎英和軍人必携  
定價金參拾五錢  
郵税金貳錢

◎野戰築城教範私解

◎射擊教育手簿  
定價金五拾錢  
郵税金六錢

◎乘馬隊幹部教育

附辦馬ノ調教並馬匹ノ疾病

◎陸軍軍隊官衙學校所在地一覽  
定價金貳拾錢  
郵税金貳錢

附海軍官憲地方廳其他重要官衙所在地

野戰砲兵監部翻譯(千九百十七年發布)

◎獨逸野砲兵射擊教範

衛生材料廠御編述ポケット入註釋附

◎陸軍藥局方(縮版クロ)  
定價金八拾錢  
郵税金六錢

前參謀次長

◎陸軍中將故田村怡與造傳 四六版

◎馬術教範第二部ニ基ク砲兵輓馬ノ調教

# 川流堂小林又七出版目錄

陸軍大臣官房御編纂

陸軍成規類聚

陸軍大臣官房御編纂

陸軍成規類聚  
補修訂正追錄

陸軍大臣官房御編纂

陸軍成規類聚  
質議回答錄

菊版二段組總六號活字一千五百頁  
カア一キ一色クロー一ス表紙

壹部定價 金貳圓

郵稅 小包 清韓臺灣 金四拾六錢

成規類聚ノ應用ヲ救済セラル、爲本篇刊  
行後陸軍御發表可相成諸成規ヲ追録トシ  
テ加除改正ヲ毎月一回ツ、追刊シ類聚ノ  
補修ヲ行フヘキコトヲ命セラレタリ就テ  
ハ本篇下同シク豫約セラレタシ  
價一箇月分郵稅共金拾五錢ノ割合ヲ以テ  
前金御拂込願度候

成規類聚中ニ在ル諸條規ノ疑義ニ涉ルモ  
ノニシテ本官、局長、副官、課長等ヨリ  
ノ御回答ヲ網羅シ就中徵兵、經理、恩賞等ノ  
事項ハ最モ綿密ニシテ條文解釋上至便ノ  
寶典ニ有之候

定價 金七拾五錢  
郵稅 金拾貳錢

○戰術詳論

第壹篇 第貳篇

定價各壹圓  
郵稅金拾貳錢

陸軍大學校入學試驗必勝ノ捷路

○戰術通信研究錄

自第一號至第四號及附錄

定價金貳圓  
郵稅金拾貳錢

○數理諸公式摘要

定價金拾八錢  
郵稅金貳錢

戰術學專攻家雲外居士著

○訂正 第七版 基本戰術摘要解義

全部上卷、下卷、附錄三冊  
本文金四圓 附錄六拾錢  
郵稅 內、滿韓臺灣 四拾錢

佛國將官ランクロア原著 日本宇山砲兵大尉譯

○砲兵及築城ニ關スル諸論

定價金壹圓  
郵稅金拾錢

陸軍二等主計法學士 藤村守美君著

○國軍と國家

定價金貳拾錢  
郵稅金四錢

千九百四年六月發布

○獨逸野戰築城教範草案

定價金貳拾錢  
郵税金四錢

○步兵操典改正草案之要點各個教練之部  
小隊教練

定價金貳五錢  
郵税金貳錢

鶴城居士著

○步兵操典私解

定價金貳拾錢  
郵税金貳錢

陸軍省步兵課翻譯

○獨逸兵役全書

定價金參圓  
郵税金拾貳錢

明治四十年改正

○陸軍藥局方第二版

定價金八拾錢  
郵税金八錢

陸軍經理學校教科用  
法學博士松崎藏之助殿口述

○財政學講義速記

定價金六十五錢  
郵税金六十五錢

陸軍經理學校教科用  
會計檢查官平塚定二郎殿口述

○會計法追條講義速記

定價金四十五錢  
郵税金拾貳錢

久保森平君著

○陸軍經理事務要訣

定價金八十錢  
郵税金八錢

陸軍會計監督部御編纂

○陸軍簿表規程第三條ニ依ル様式

定價金五十錢  
郵税金六十錢

○陸軍給與輯錄

定價金壹圓  
郵税金拾貳錢

明治四十一年度

○陸軍省所管歲入歲出科目表

定價金拾五錢  
郵税金貳錢

○蒸汽炊爨法

定價金參拾五錢  
郵税金四錢



○改陸軍刑法 附陸軍刑法施行法

定價金 貳五錢  
郵稅金 貳五錢

○改正陸軍軍制要領

定價金 拾五錢  
郵稅金 拾四錢

陸軍獸醫學校御編纂

○陸軍病馬看護法

定價金 貳拾錢  
郵稅金 貳拾錢

○新兵馬術教育必携

定價金 貳拾五錢  
郵稅金 拾四錢

○乘馬兵須知

定價金 貳五錢  
郵稅金 貳五錢

○馬術教範改正草案第一部私解

定價金 十五錢  
郵稅金 貳錢

○同 第二部私解

定價金 二十錢  
郵稅金 十四錢

○三八式步兵銃及騎銃取扱法

定價金 七錢  
郵稅金 七錢

佐々木一雄君著

○馬 匹 感

定價金 參拾八錢  
郵稅金 四錢

○第一期間 教育日誌

定價金 參拾八錢  
郵稅金 八錢

○改赤十字條約解釋

定價金 五錢  
郵稅金 貳錢

○衛生材料格納保全方法

定價金 四錢  
郵稅金 四錢

○傳染病及食中毒症細菌學的檢查法

定價金 八錢  
郵稅金 貳錢

○戰時衛生勤務令

附豫備病院及要塞病院服務内則  
職用衛生材料及內容品表  
赤十字條約及同條約ヲ海戰ニ應用スル條約  
赤十字條約及同戰時救護規則

壹部金四拾五錢  
郵税金六錢

○各個散兵之教育第一、第二篇

定價金貳拾五錢  
郵税金四錢

○軍事劍

筆

定價金貳拾錢  
郵税金貳錢

○軍事玉

霰

定價金拾五錢  
郵税金貳錢

○予の苦戰奮闘

定價金貳拾錢  
郵税金六錢

步兵大尉N、K殿著  
本派本願寺軍隊布教使佐藤巖英帥述

○胸中の金仙花

雪の卷理想篇  
月の卷護國篇  
花の卷人物篇

金貳拾錢 郵稅貳錢  
金貳拾錢 同貳錢  
金貳拾錢 同貳錢

○精神巖英著  
○精神武

士

道

壹册金參拾錢  
郵税金四錢

○櫻樹山人著  
○武士

の

鑑 附北清之花

定價金拾貳錢  
郵税金貳錢

○精神居士著  
○精神護

國

の

魂

定價金拾五錢  
郵税金貳錢

陸軍中將男爵 立見尙文閣下題辭  
陸軍步兵大佐 安村龍雄殿  
陸軍步兵中尉 藤村忠誠殿  
陸軍步兵中尉 高坂知行殿  
陸軍步兵中尉 瀧本潔殿  
著述

○軍隊德

育

編

壹册金貳拾五錢  
郵税金四錢

小林編輯部著

職案

內

案內

定價金參拾錢  
郵税金四錢

騎兵少佐浮田家雄殿  
步兵少尉三浦治殿  
校閱著

職者

の

顧問

問

定價金貳拾錢  
郵税金貳拾錢

參謀本部大川信次郎先生校訂  
步兵中尉惠藤不二雄殿著述

○兵俗

日

露

文

法

會

話

定價金五拾錢  
郵税金四錢

○日

清

會

話

會

話

話

一冊金貳拾錢  
郵税金貳拾錢

柴山閣下 題字  
末永純一郎君 著  
（挿繪十數葉入）

○新旅

順

案

內

一冊金貳拾五錢  
郵税金四錢

○陣中

衛

生

ノ

心

得

得

一冊金貳參錢  
郵税金貳參錢

○軍馬

に

對

す

る

兵

卒

の心得  
一冊金貳五錢  
郵税金貳五錢

○步兵

大尉

Y M殿著

之

教

育

育

定價金五拾錢  
郵税金八錢

步兵少佐石藤市勝殿著

○指

揮

鑑

鑑

全部(甲、乙)二冊  
定價(甲)の部六拾錢  
定價(乙)の部五拾錢  
郵税(甲、乙)四錢

S、S氏著

○下士

戰

術

階

梯  
定價金參拾錢  
郵税金四錢

瓢海庵著

○兵

棋

對

策

定價金五拾八錢  
郵税金八錢

○ 五君著  
○ 聯隊以下ノ小部隊ニ於ケル戰鬪法

定價金四拾五錢  
郵税金四錢

戰術學專攻家雲外居士著  
○ 用 兵 必 携

前編定價金四拾錢  
中編定價金四拾錢  
郵税金各四錢

孤城士著  
○ 戰術家戰 鬪 原 則

定價金四拾錢  
郵税金四錢

多賀大尉殿著  
○ 步 兵 斥 候

定價金拾五錢  
郵税金貳錢

夢城生著  
○ 步 兵 前 哨

定價金拾五錢  
郵税金貳錢

石藤步兵少佐殿著  
○ 支 隊 戰 術 應 用 例

壹冊金參拾錢  
郵税金四錢

大本營陸軍幕僚御翻譯  
千九百四年四月十日(露曆)勅裁

○ 露國野外要務令 附混成支隊戰鬪教令

正價金拾五錢  
郵税金貳錢

佛國陸軍砲兵大尉オーブラー氏著  
日本陸軍砲兵大尉宇山熊太郎殿譯

○ 野 砲 兵 野 外 勤 務 演 習

前、中、後篇ノ三冊  
一部(附圖各數十種)  
定價部金一圓二角  
郵税金八錢

參謀本部御編纂 三十七年發行

○ 明治三十三年 清國事變戰史

縱九寸橫六寸五分  
石版刷戰鬪圖、地圖、各  
種入卷ノ一ヨリ六迄及  
附表附圖共八冊  
郵税金參拾貳錢

江原素六先生序  
德富蘇峰先生序  
森山信規君著述

○ 米 西 戰 爭 附比律賓群島小地誌

菊版二百五十八頁餘  
地圖四枚  
壹部金五拾錢  
郵税金六錢

○ 北 清 事 情 大 全

定價金壹圓  
郵税金拾貳錢

碩田居士著 (第四版出來)  
○騎兵野外勤務問答

壹冊金拾貳錢  
郵稅金貳錢

陸軍工兵少尉佐KM殿校訂  
陸軍步兵少尉澤木外雄殿著  
○測圖指針

三十四年式地形測圖  
法式圖外四百餘圖入  
定價金參拾五錢  
郵稅金四錢

陸軍砲兵大尉TM殿著  
○速射野山砲射擊問答集 編前

定價金貳拾五錢  
郵稅金貳錢

○分隊活用龜鑑

定價金貳拾五錢  
郵稅金四錢

葛南逸士著  
○劍術研究論

定價金拾五錢  
郵稅金貳錢

HS 士著  
○斥候勤務活用

二萬分一佐倉近傍一  
大精密地圖壹葉添  
壹部金參拾五錢  
郵稅金四錢

陸軍步兵少尉澤木外雄殿著  
○隊務要覽 第二集

定價金參拾錢  
郵稅金四錢

HC 著  
○戰鬥間砲兵ノ使用法

一部金貳拾錢  
郵稅金貳錢

山本道太郎著  
○陸軍懲罰令講義全

一部金貳五錢  
郵稅金貳錢

教育總監部御發行

○步兵射擊豫行演習教育方案

一部金貳五錢  
郵稅金貳錢

○步兵射擊習會表

一部金貳錢  
郵稅金貳錢

步兵補充大隊ノ射擊教育ニ關スル意見  
各個戰團射擊豫行教育法

一部金貳錢  
郵稅金貳錢

大判書入用

○改正野外要務令

一冊金參拾五錢  
郵稅金六錢

○大形步兵操典改正草案(第一部)

一冊金貳拾貳錢  
郵稅金四錢

○大形騎兵操典改正草案

一冊金拾參錢  
郵稅金四錢

○大形馬術教範改正草案(第一部)

一冊金拾參錢  
郵稅金四錢

○大形馬術教範改正草案(第二部)

一冊金拾參錢  
郵稅金四錢

○大形騎兵通信教範草案

一冊金拾參錢  
郵稅金四錢

○大形陸軍刑法

一冊金拾貳錢  
郵稅金四錢

附同施行法

陸軍省御檢閱濟改正操典教範類

○改正野外要務令

一冊金拾四錢  
郵稅金四錢

○步兵操典改正草案(第一部)

一冊金貳錢  
郵稅金貳錢

○同(第二部)

一冊金貳錢  
郵稅金貳錢

○步兵射擊教範改正草案

一冊金七錢  
郵稅金貳錢

○步兵機關銃操典草案

一冊金壹錢  
郵稅金貳錢

○騎兵機關銃操典草案

一冊金壹錢  
郵稅金貳錢

○步兵及騎兵機關銃特業者教育教令

一冊金壹錢  
郵稅金貳錢

○騎兵操典改正草案	定價金四錢五厘
○騎兵射擊教範改正草案	定價金貳九錢
○騎兵通信教範草案	定價金貳拾錢
○馬術教範改正草案 <small>第一部</small>	定價金貳四錢
○同 <small>第二部</small>	定價金貳五錢
○野戰砲兵操典改正草案	定價金六錢五厘
○同 射擊教範改正草案	定價金貳七錢
○三八式野砲操法假規定	定價金貳貳錢

○三八式野砲射擊假規定	定價金貳貳錢
○要塞砲兵操典改正草案	定價金貳六錢
○同 射擊教範改正草案 <small>第一部</small>	定價金貳九錢
○同 射擊教範改正草案 <small>第二部</small>	定價金貳七錢
○同 照準教範草案	定價金貳拾壹錢
○同 觀測教範草案	定價金貳九錢
○同 通信教範草案	定價金貳拾錢
○同 火工教範改正草案	定價金貳拾壹錢

○同 力作教範改正草案

定價金 貳拾錢

○同 兵器保存法

定價金 貳貳錢

○要塞用特種火砲操法

定價金 貳參錢

○野戰築城教範改正草案

定價金 貳拾錢

○坑道教範草案

定價金 拾五錢

○爆破教範改正草案

定價金 拾錢五厘

○交通教範

定價金 貳七錢

○架橋教範改正草案

定價金 拾貳錢

(應用材料之部)

○築營教範

定價金 貳五錢

○工兵射擊演習教令改正草案

定價金 貳壹錢

○輜重兵操典改正草案

定價金 四錢五厘

○輜重兵射擊演習教令改正草案

定價金 貳壹錢

○輜重輓馱馬調教範改正草案

定價金 貳參錢

○捆包積載教範改正草案

定價金 貳拾八錢

附圖共

○劍術教範

定價金 貳八錢

○陸軍服裝規則

定價金 貳參錢



○村田騎銃使用法

郵定價金 貳貳錢

○對馬警備隊步兵射擊演習教令草案

郵定價金 貳壹錢

○改正陸軍喇叭譜

郵定價金 貳九錢

陸軍省醫務局長檢定教科書

○陸軍看護學修業兵教科書

郵定價金 貳拾五錢

○陸軍看護學教程

郵定價金 四拾錢

○陸軍調劑學教程

郵定價金 貳拾錢

○陸軍看護卒教科書

郵定價金 貳拾貳錢

○陸軍看病人教科書

郵定價金 貳拾錢

寸珍ポケット入(茶褐色クロース表紙)

○野外要務令

郵定價金 貳拾貳錢

同 (クロース表紙)

○陸軍禮式

郵定價金 貳五錢

其他操典、教範寸珍ポケット入ハ全部取揃申候

○體操教範

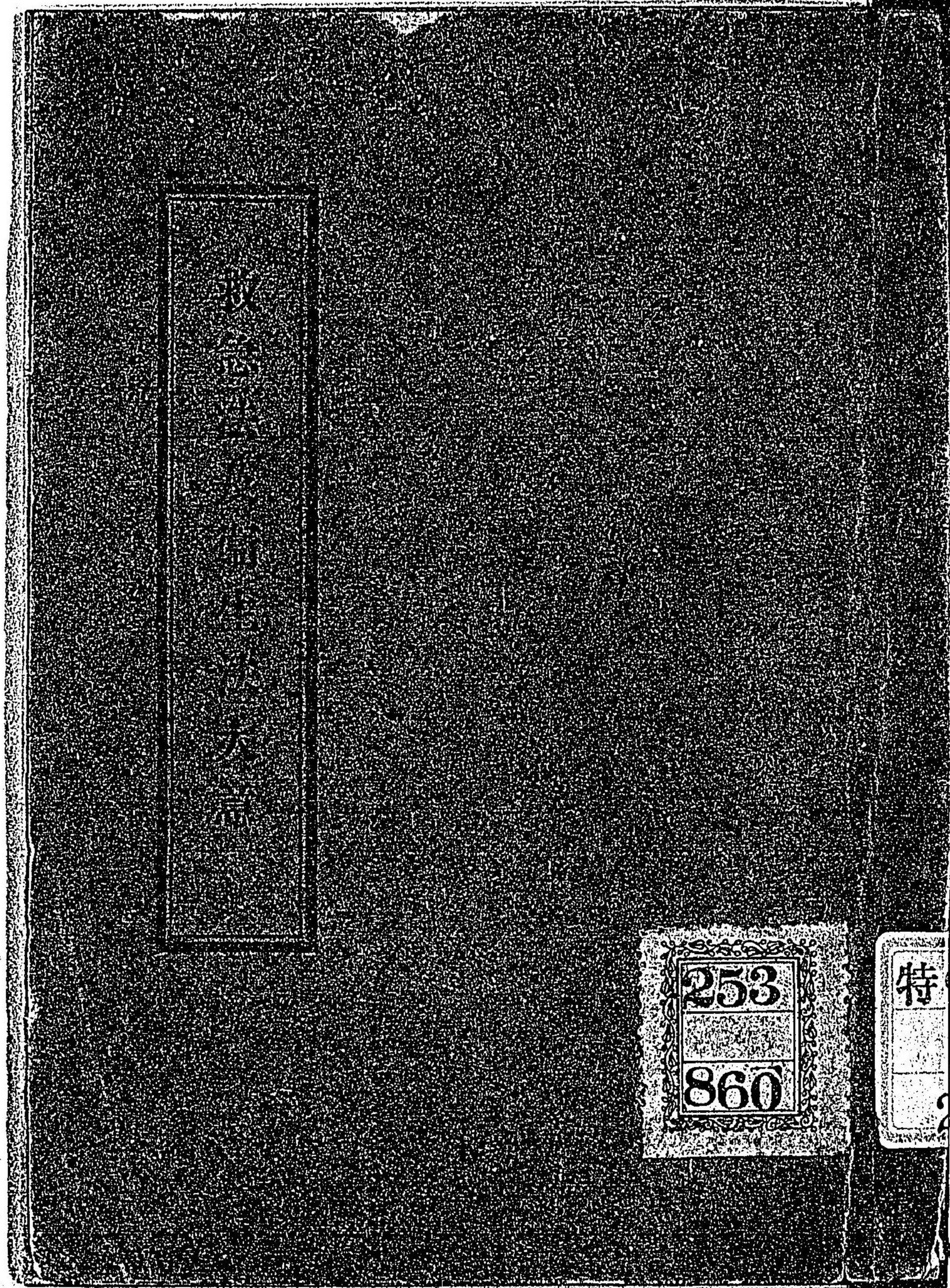
郵定價金 貳拾錢

○劍術教範

郵定價金 貳八錢







救急法及衛生法大意

253  
860

特

058568-000-2

特65-270

救急法及衛生法大意

川流堂

M41

CBC-0087

